
相模原市 在宅療養連携ケースモデル事業
支え手帳利用に関するアンケート調査

－ 報告書 －

令和5年3月

相模原市

～ 目 次 ～

調査結果	1
I 支え手帳利用者アンケート（一次モデル利用者）	1
1 基本属性	1
2 支え手帳の利用について	5
3 スマートフォン等を活用した医療・介護との連携について	7
4 情報共有ツールの必要性について	9
5 自由回答	10
II 支え手帳利用者アンケート（二次モデル利用者）	11
1 基本属性	11
2 支え手帳の保管・利用	15
3 医療機関・施設の対応	26
4 未利用の理由	29
5 救急搬送の有無	30
6 スマートフォン等を活用した医療・介護との連携について	32
7 情報共有ツールの必要性について	34
8 自由回答	35
III 支え手帳関係機関アンケート（一次モデル事業）	36
1 基本属性	36
2 支え手帳を希望しない方への対策について	37
3 支え手帳に代わる連携システムについて	38
4 情報共有ツールの必要性について	39
5 スマートフォン等を活用した医療・介護との連携について	40
6 自由回答	43
IV 支え手帳関係機関アンケート（二次モデル事業）	44
1 基本属性	44
2 支え手帳の活用	45
3 未利用の理由	56
4 手帳が有用となる対象	57
5 支え手帳を希望しない方への対策について	58
6 支え手帳に代わる連携システムについて	59
7 情報共有ツールの必要性について	60
8 スマートフォン等を活用した医療・介護との連携について	61

9	自由回答	64
V	支え手帳利用拒否者調査	65
1	基本属性	65
2	配付に至らなかった理由	68

【報告書の見方について】

- (1) 集計は小数点以下第2位を四捨五入している。したがって、回答比率の合計は必ずしも100%にならない場合がある。
- (2) 2つ以上の回答を可能とした設問（複数回答）の場合、その回答比率の合計は100%を超える場合がある。
- (3) 図表中に示すnは、比率算出上の基数（標本数）である。
- (4) 標本数が10を下回る回答には回答件数を合わせて表記している。
- (5) この他、個別に参照事項がある場合は、本報告書の該当箇所に適宜記載した。

調査結果

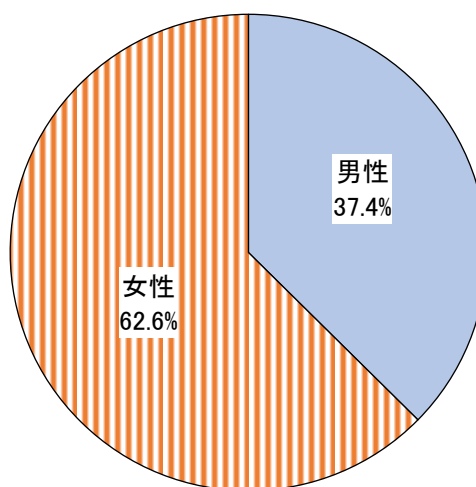
I 支え手帳利用者アンケート（一次モデル利用者）

1 基本属性

(1) 性別

F1 あなたの性別を次の中からお選びください。（○は1つだけ）

回答者の性別は、「男性」が37.4%、「女性」が62.6%となっています。

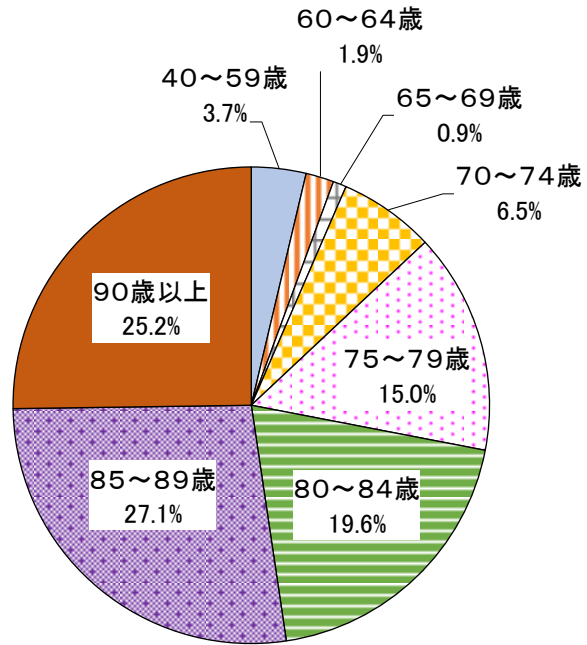


n= 107
(無回答=0)

(2) 年齢

F2 あなたの年齢を次の中から選びください。(○は1つだけ)

回答者の年齢は、「85～89歳」が27.1%と最も多く、次いで「90歳以上」(25.2%)、「80～84歳」(19.6%)の順に続いています。

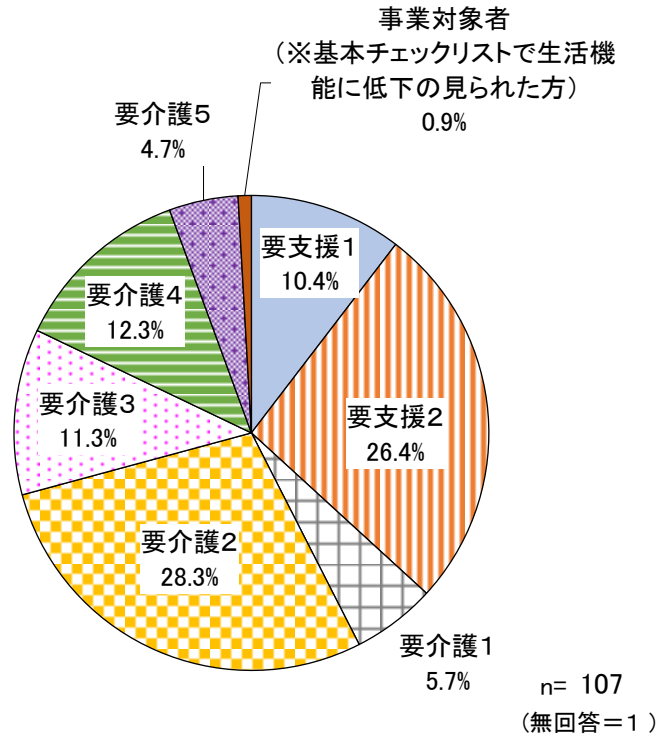


n= 107
(無回答= 0)

(3) 介護認定の状況

F3 現在の介護認定等の状況を教えてください。(○は1つだけ)

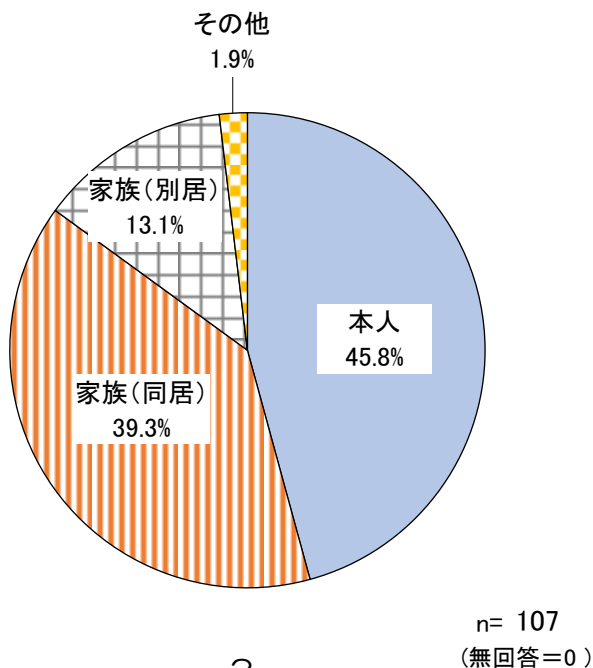
現在の介護認定の状況については、「要介護2」が28.3%と最も多く、次いで「要支援2」(26.4%)、「要介護4」(12.3%)の順に続いています。



(4) アンケート記入者

F4 アンケートを記入する方を次の中からお選びください。(○は1つだけ)

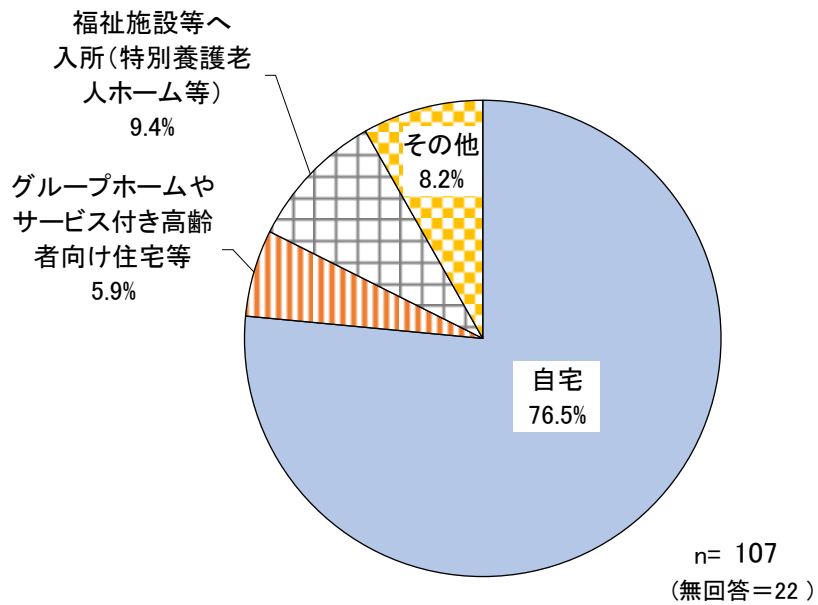
アンケートを記入する方については、「本人」が45.8%と最も多く、次いで「家族(同居)」(39.3%)、「家族(別居)」(13.1%)の順に続いています。



(5) 現在の居住状況

F5 現在の居住状況を教えてください。(○は1つだけ)

現在の居住状況については、「自宅」が76.5%と最も多く、次いで「福祉施設等へ入所(特別養護老人ホーム等)」(9.4%)、「グループホームやサービス付き高齢者向け住宅等」(5.9%)の順に続いています。

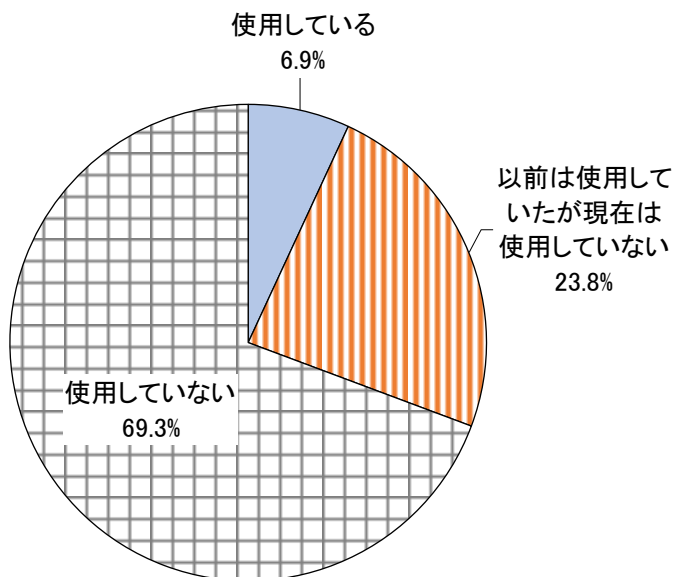


2 支え手帳の利用について

(1) 現在の使用状況

問1 現在も支え手帳を使用していますか。(○は1つだけ)

現在の支え手帳使用状況については、「使用していない」が69.3%と最も多く、次いで「以前は使用していたが現在は使用していない」(23.8%)、「使用している」(6.9%)の順に続いています。



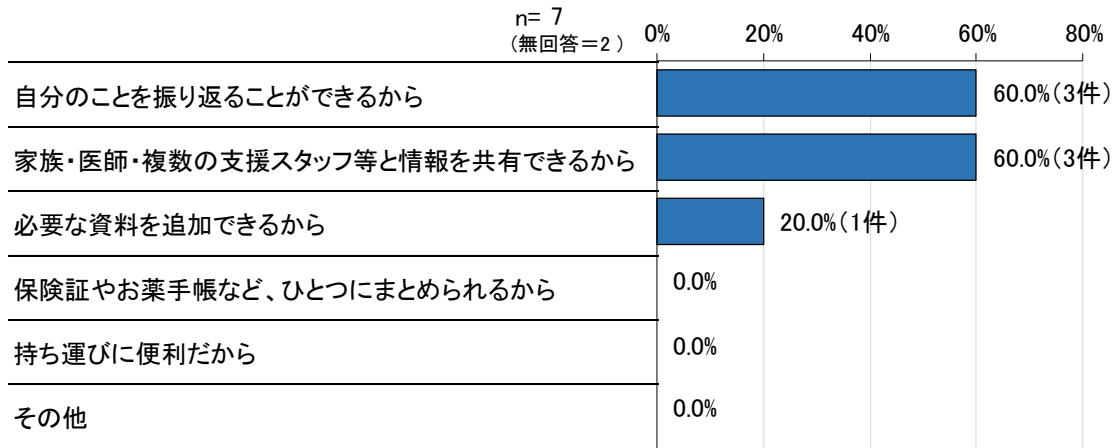
n= 107
(無回答=6)

使用期間	件数
半年未満	4
半年～1年未満	4
1年～2年未満	2
2年以上	1

(2) 現在も使用している・していない理由

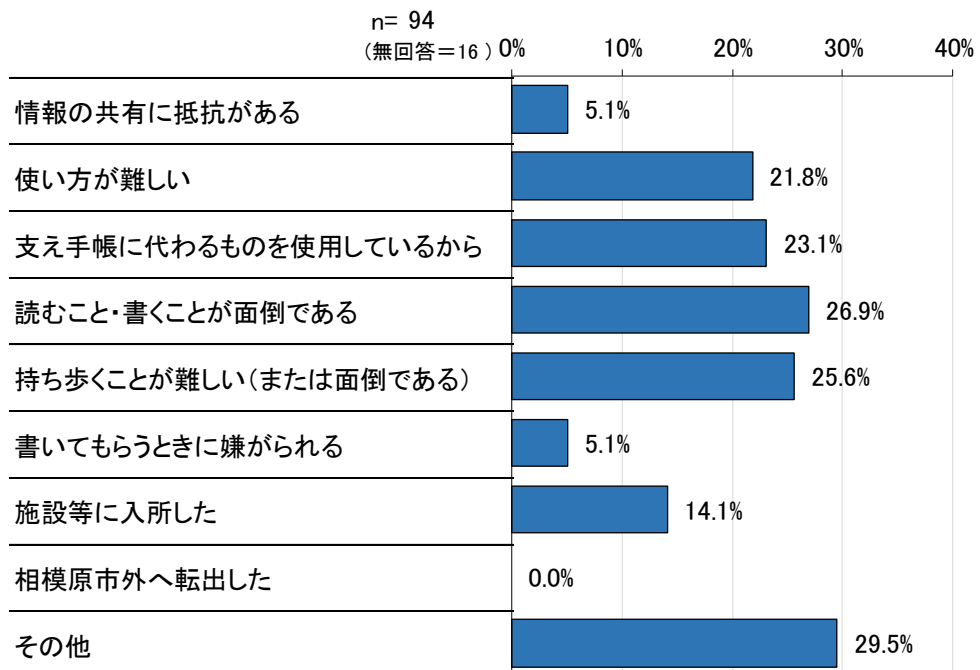
問2 【問1で「使用している」と回答した方に伺います。】
その理由を教えてください。(〇はいくつでも)

現在も支え手帳を使用している理由については、「自分のことを振り返ることができるから」、「家族・医師・複数の支援スタッフ等と情報を共有できるから」がともに60.0%と最も多く、次いで「必要な資料を追加できるから」(20.0%)と続いています。



問3 【問1で「使用していない」と回答した方に伺います。】
その理由を教えてください。(〇はいくつでも)

現在支え手帳を使用していない理由については、「読むこと、書くことが面倒である」が26.9%と最も多く、次いで「持ち歩くことが難しい(または面倒である)」(25.6%)、「支え手帳に代わるものを使用しているから」(23.1%)の順に続いています。

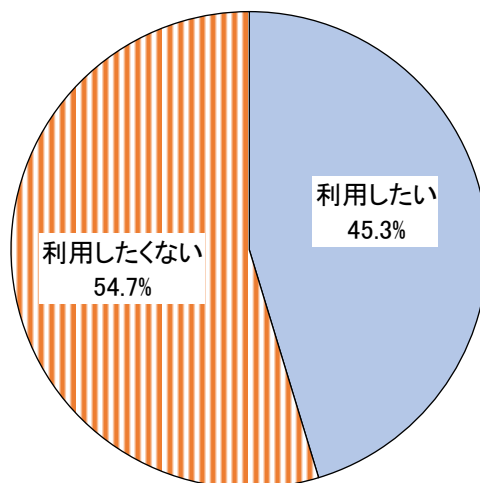


3 スマートフォン等を活用した医療・介護との連携について

(1) スマートフォン等を活用した医療・介護との連携

問4 医療や介護の関係者と連携する際、スマートフォンやパソコンを活用した情報共有ができるものがあれば利用したいと思いますか。(○は1つだけ)

医療・介護との連携におけるスマートフォン等の活用意向については、「利用したい」が45.3%、「利用したくない」が54.7%となっています。

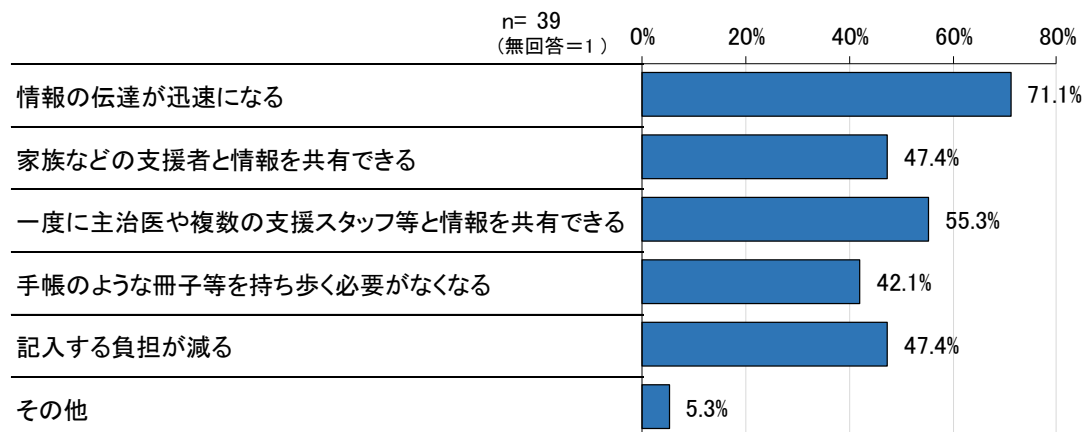


n= 107
(無回答=21)

(2) スマートフォン等を活用した医療・介護との連携を利用したい・したくない理由

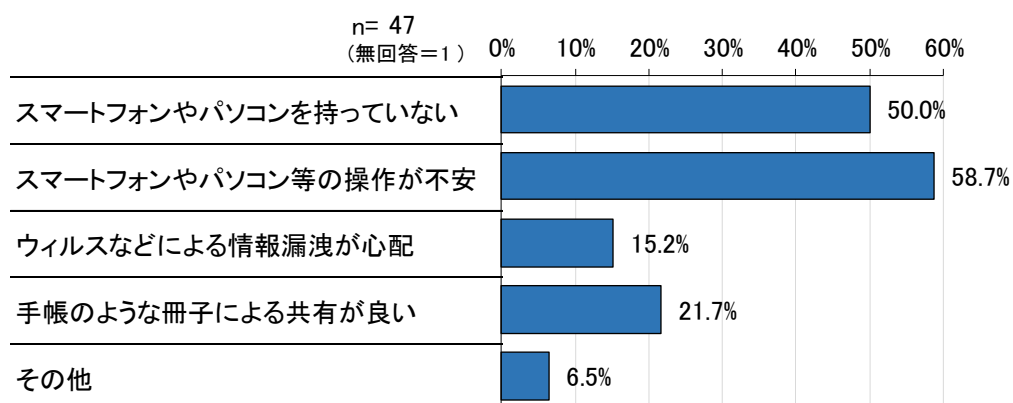
問5 【問4で「利用したい」と回答した方に伺います。】
その理由を教えてください。(○はいくつでも)

スマートフォン等を活用した医療・介護との連携を利用したい理由については、「情報の伝達が迅速になる」が71.1%で最も多く、次いで「一度に主治医や複数の支援スタッフ等と情報を共有できる」(55.3%)、「家族などの支援者と情報を共有できる」、「記入する負担が減る」(ともに47.4%)の順に続いています。



問6 【問4で「利用したくない」と回答した方に伺います。】
その理由を教えてください。(〇はいくつでも)

スマートフォン等を活用した医療・介護との連携を利用したくない理由については、「スマートフォンやパソコン等の操作が不安」が58.7%で最も多く、次いで「スマートフォンやパソコンを持っていない」(50.0%)、「手帳のような冊子による共有が良い」(21.7%)の順に続いています。

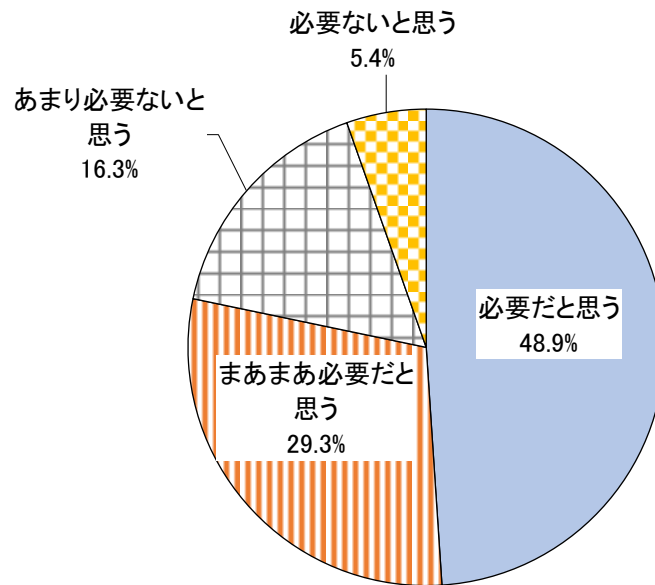


4 情報共有ツールの必要性について

(1) 情報共有ツールの必要性について

問7 支え手帳のように、ご本人・ご家族・医療従事者・介護従事者が情報を共有し、連携できるものは必要だと思いますか。(○は1つだけ)

情報共有ツールの必要性については、「必要だと思う」が48.9%と最も多く、「必要だと思う」と「まあまあ必要だと思う」を合計した『必要だと思う』は78.2%となっています。一方、「必要ないと思う」と「あまり必要ないと思う」を合計した『必要ないと思う』は21.7%となっています。



n= 107
(無回答=15)

5 自由回答

(1) 支え手帳に関する意見や要望

問8 支え手帳に関するご意見やご要望がありましたら、どんなことでもご自由にご記入ください。

■要旨の抜粋

○手帳の形状等について

- ・お薬手帖は常々持参して外出している。支え手帳も同じ位の大きさなら利用しやすいと思う。自宅内に吊るせる様な物形、目に付きやすい色使いならいいと思う。
- ・もっと簡単な物が良い

○配布・周知方法について

- ・支え手帳の様なものは介護などを受ける方などにはとても大切なものだと思います。しかしながら配布ただけで医療関係者、介護従事者、薬局などにはこの手帳の利用を、働きかけていただいたのでしょうか？ケアマネの訪問日などに必ず目を通すなど利用されているかその度の手帳の確認などしないと定着していかないと思います。独居の方などがこの手帳をしっかりと記入されたものがあれば何かの時には本当に役に立つ手帳になると思います。

○他の方法・形式について

- ・認識機能の低下があるとファイル形式のものはどこかにしまい込んだり捨てたりしてしまうことがあるため、必要に応じてネット経由での情報共有がやれるといい。

○利用しての感想

- ・かかりつけ医や他医の欄は書くスペースも小さいので、あまり使わなくなってしまいました。みんなの連絡帳の欄を増やして、かかりつけ医等もみんなの連絡帳に記載した方がいいのではないのでしょうか。
- ・支え手帳一冊に本人及び家族の健康状況が確認出来るのがいいです。

○今は使っていない

- ・今のところ支え手帳を活用した事がないが支援者などの情報共有がスムーズになれば使う事があるかもしれない
- ・将来的には必要だと思うが、現状ではあまり必要性を感じていない。記録としては書いておきたいと思う。

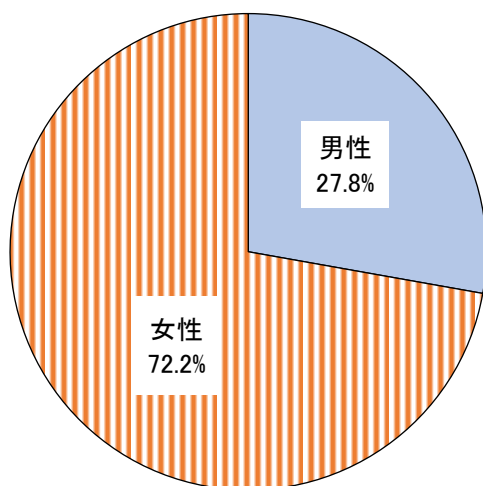
Ⅱ 支え手帳利用者アンケート（二次モデル利用者）

1 基本属性

（1）性別

F1 あなたの性別を次の中からお選びください。（○は1つだけ）

回答者の性別は、「男性」が27.8%、「女性」が72.2%となっています。

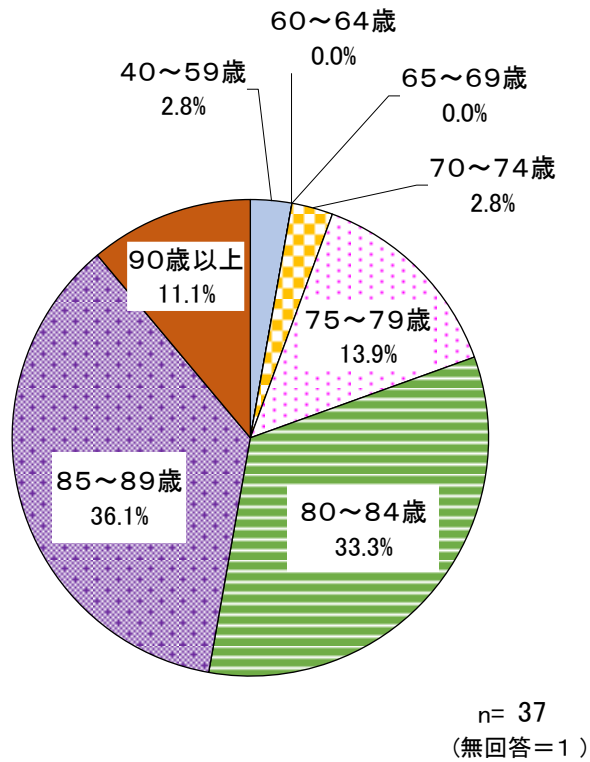


n= 37
(無回答=1)

(2) 年齢

F2 あなたの年齢を次の中から選びください。(○は1つだけ)

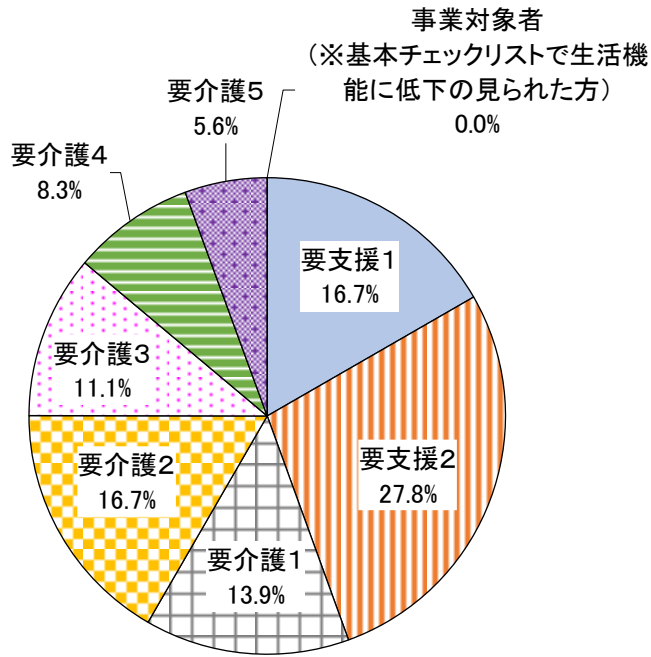
回答者の年齢は、「85～89歳」が36.1%と最も多く、次いで「80～84歳」(33.3%)、「75～79歳」(13.9%)の順に続いています。



(3) 介護認定の状況

F3 現在の介護認定等の状況を教えてください。(○は1つだけ)

現在の介護認定の状況については、「要支援2」が27.8%と最も多く、次いで「要支援1」、「要介護2」(ともに16.7%)、「要介護1」(13.9%)の順に続いています。

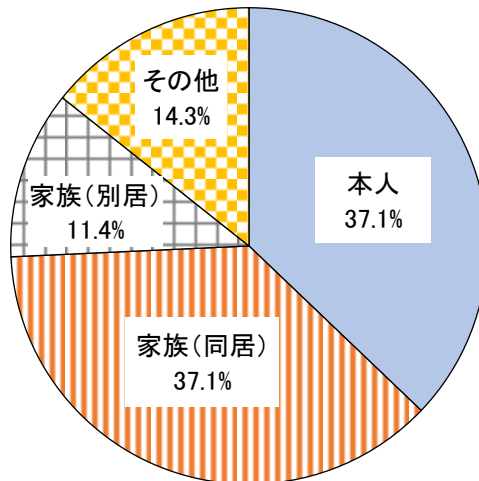


n= 37
(無回答=1)

(4) アンケート記入者

F4 アンケートを記入する方を次の中からお選びください。(○は1つだけ)

アンケートを記入する方については、「本人」、「家族(同居)」がともに37.1%、「家族(別居)」が11.4%となっています。

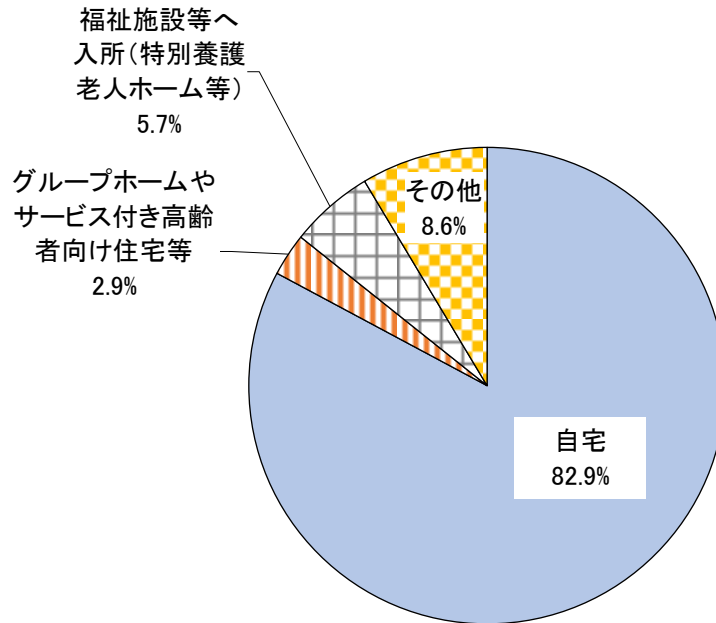


n= 37
(無回答=2)

(5) 現在の居住状況

F5 現在の居住状況を教えてください。(○は1つだけ)

現在の居住状況については、「自宅」が82.9%と最も多く、次いで「福祉施設等へ入所(特別養護老人ホーム等)」(5.7%)、「グループホームやサービス付き高齢者向け住宅等」(2.9%)の順に続いています。



n= 37
(無回答=2)

2 支え手帳の保管・利用

(1) 有用性

問1 支え手帳は役に立ちましたか。(○は1つだけ)

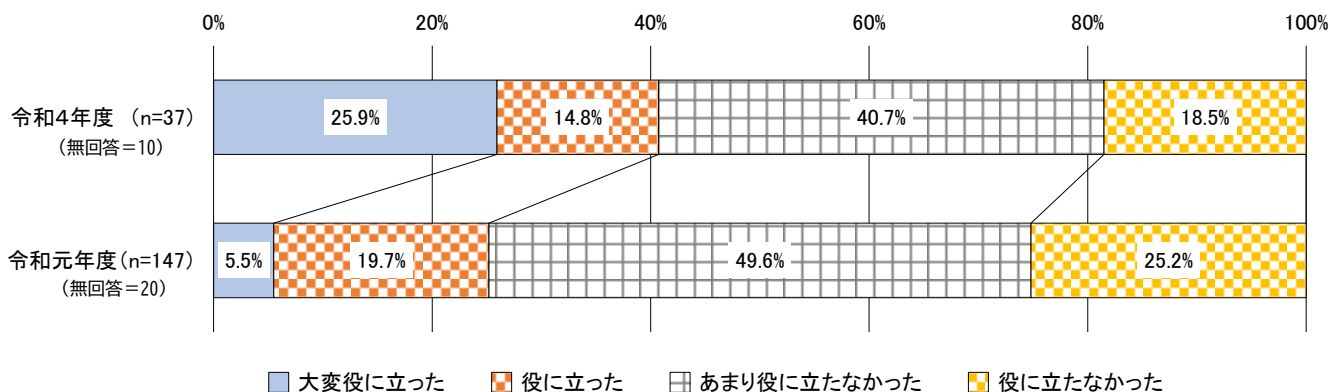
支え手帳が役立ったかについては、「あまり役に立たなかった」が40.7%と最も多く、次いで「大変役に立った」(25.9%)、「役に立たなかった」(18.5%)の順に続いています。

令和元年度調査では、「あまり役に立たなかった」が49.6%と最も多く、次いで「役に立たなかった」(25.2%)、「役に立った」(19.7%)の順に続いています。

令和元年度調査と比較すると、「大変役に立った」と「役に立った」を合計した“役に立った”は25.2%(令和元年度)から40.7%(令和4年度)と大幅に増加しています。「役に立たなかった」と「あまり役に立たなかった」を合計した“役に立たなかった”は74.8%(令和元年度)から59.2%(令和4年度)となっています。

利用した方全員から返答を得られてはいないので参考値となりますが、実際に使用したことで“役に立った”との実感が得られていることがわかります。特に「大変役に立った」との回答が伸びており、実際に手帳の有用性を実感する場面があったことが伺えます。

経年比較



(2) 本人・家族が手にとる頻度

問2 支え手帳をご本人とご家族が手にとって見たり、持参した利用頻度を教えてください。(○は1つだけ)

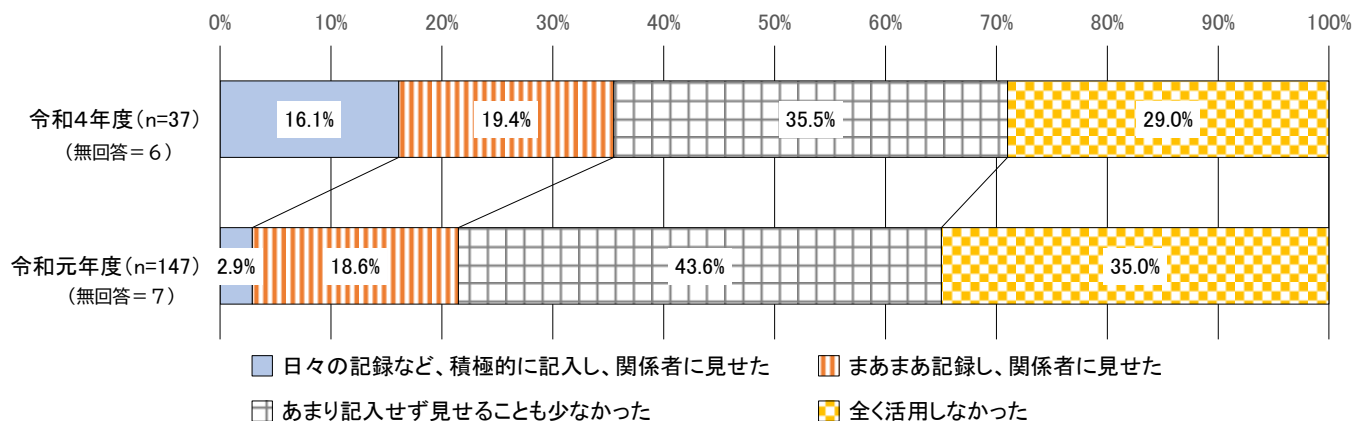
支え手帳を使用した頻度については、「あまり記入せず見せることも少なかった」が35.5%と最も多く、次いで「全く活用しなかった」(29.0%)、「まあまあ記録し、関係者に見せた」(19.4%)の順に続いています。

令和元年度調査では、「あまり記入せず見せることも少なかった」が43.6%と最も多く、次いで「全く活用しなかった」(35.0%)、「まあまあ記録し、関係者に見せた」(18.6%)の順に続いています。

令和元年度調査と比較すると、「日々の記録など、積極的に記入し、関係者に見せた」では13.2ポイント増加し、「全く活用しなかった」では6ポイント減少しています。

「まあまあ記録し、関係者に見せた」では割合に大きな変化がない一方、「日々の記録など、積極的に記入し、関係者に見せた」では大きく伸びており、意識的に利用を続けていた方がいることが伺えます。

経年比較



(3) 活用の場

問3 支え手帳を手にとって見たり、記入、持参するなど、どのようなときに活用しましたか。(〇はいくつでも)

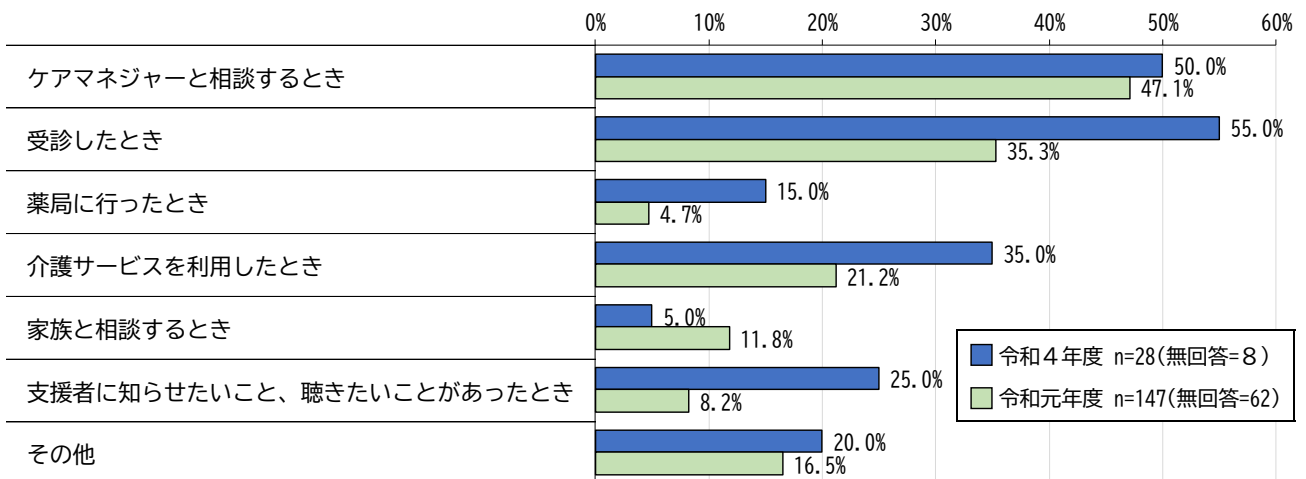
支え手帳の活用の場については、「受診したとき」が55.0%と最も多く、次いで「ケアマネジャーと相談するとき」(50.0%)、「介護サービスを利用したとき」(35.0%)の順に続いています。

令和元年度調査では、「ケアマネジャーと相談するとき」が47.1%と最も多く、次いで「受診したとき」(35.3%)、「介護サービスを利用したとき」(21.2%)の順に続いています。

令和元年度調査と比較すると、「ケアマネジャーと相談するとき」ではほぼ同じ割合となっている一方、「受診したとき」や「介護サービスを利用したとき」、「支援者に知らせたいこと、聴きたいことがあったとき」の回答は約1~2割増加しています。

全体的な割合の大小に大きな変動はないものの、「受診したとき」では大きく伸びていることがわかります。自由意見では診察などで手帳に記入してもらうのは気が引ける、といった意見も見られますが、実際の利用としては受診時に最も活用されており、次いでケアマネジャーへの相談時と、令和元年度とは順位が入れ替わっています。

経年比較



(4) 保管場所

問4 保管場所は決めていましたか。また、どこに保管しましたか。(○は1つだけ)

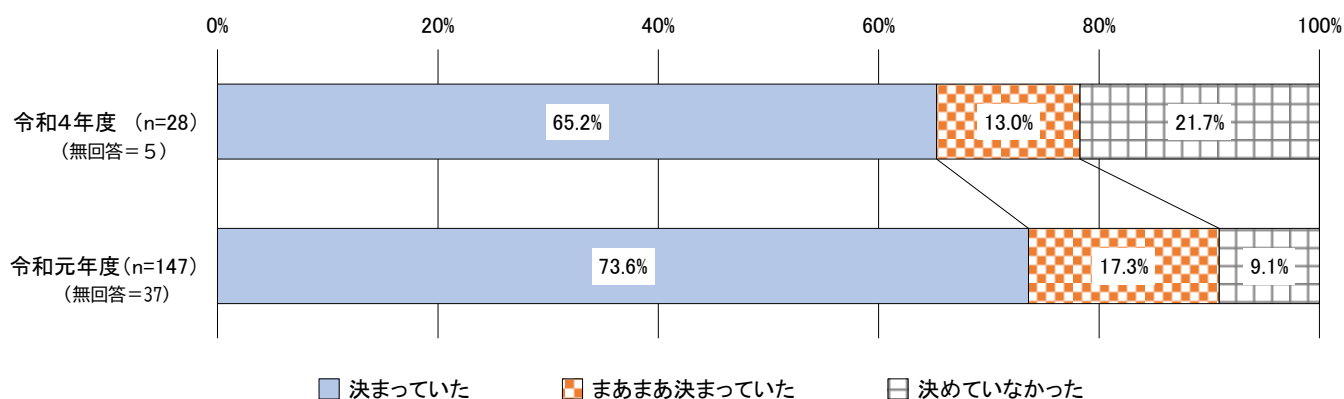
保管場所については、「決まっていた」が65.2%と最も多く、次いで「決めていなかった」(21.7%)、「まあまあ決まっていた」(13.0%)の順に続いています。

令和元年度調査では、「決まっていた」が73.6%と最も多く、次いで「まあまあ決まっていた」(17.3%)、「決めていなかった」(9.1%)の順に続いています。

令和元年度と比較すると、「決まっていた」では8.4ポイント減少し、「決めていなかった」では12.6ポイント増加しています。

保管場所に関して「決まっていた」方が減少傾向となっていることから、実際の利用では決まった保管場所ではなく、流動的に活用されていた方が増えたことがわかります。

経年比較



(5) マグネットの活用

問5 保管場所を記入するマグネットは貼り出していましたか。どこに掲示しましたか。(〇は1つだけ)

保管場所記入のマグネットについては、「貼り出した」が10.5%、「貼っていないかった」が89.5%となっています。

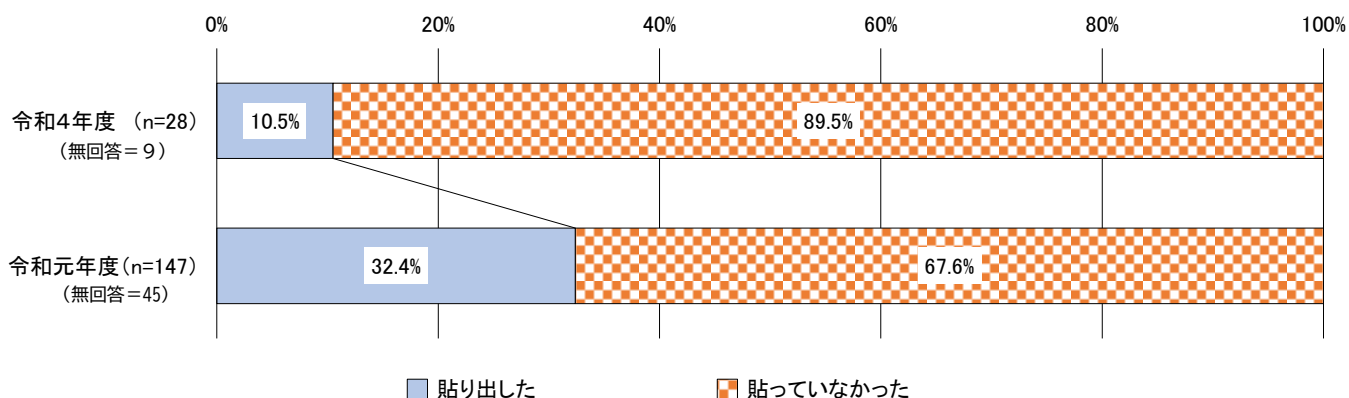
令和元年度調査では、保管場所記入のマグネットについては、「貼り出した」が32.4%、「貼っていないかった」が67.6%となっています。

令和元年度調査と比較すると、「貼り出した」では21.9ポイント減少しています。

保管場所を記入したマグネットを使用していない方が増加傾向にあり、利用を続けている方は保管場所を自身でしっかりと理解されていることが伺えます。

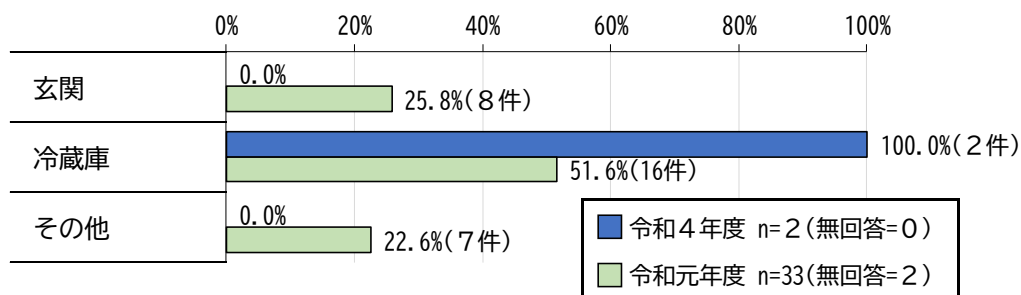
経年比較

【マグネットの貼り出し有無】



経年比較

【貼り出した場所】



(6) 使用したページ

問6 支え手帳でよく使用したページはどこですか。(〇はいくつでも)

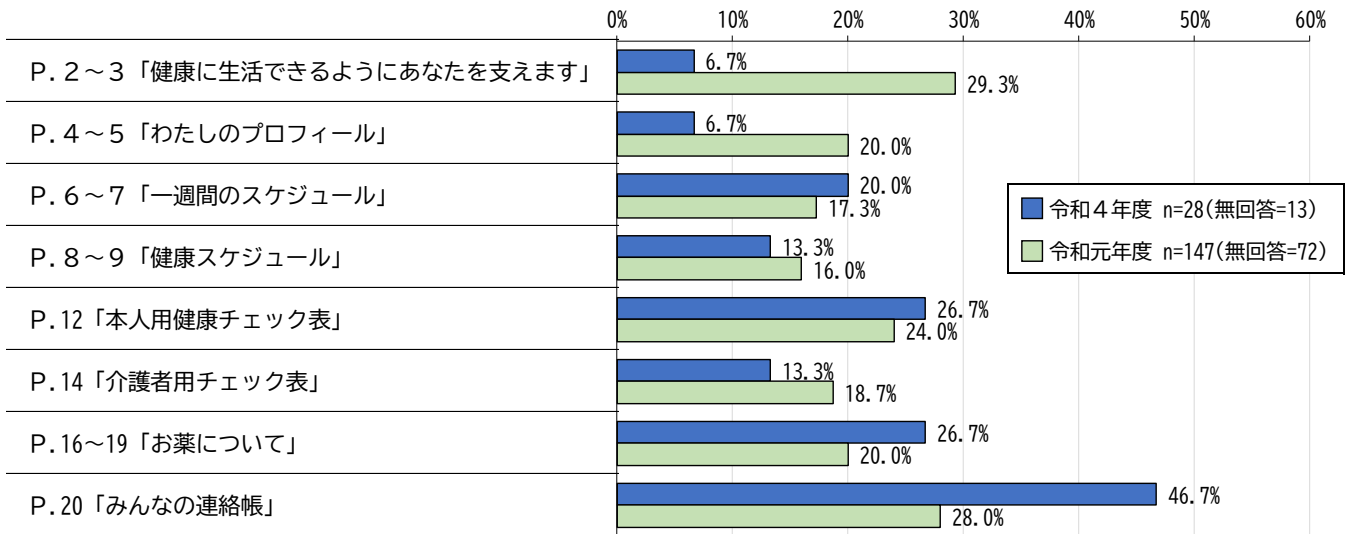
よく使用したページについては、「みんなの連絡帳」が46.7%と最も多く、次いで「本人用健康チェック表」、「お薬について」(ともに26.7%)、「一週間のスケジュール」(20.0%)の順に続いています。

令和元年度調査では、健康に生活できるようにあなたを支えます」が29.3%と最も多く、次いで「みんなの連絡帳」が28.0%、「本人用健康チェック表」が24.0%の順に続いています。

令和元年度調査と比較すると、「健康に生活できるようにあなたを支えます」では22.6ポイント減少しています。一方、「みんなの連絡帳」では18.7ポイント増加しています。

全体的に前回調査と大きく割合が変化しており、P2~5までの項目は使い始めではよく利用され、使用を続けるうちにP20「みんなの連絡帳」の利用頻度が上昇していることが伺えます。

経年比較



(7) 大きさ

問7 支え手帳の大きさはどうですか。(○は1つだけ)

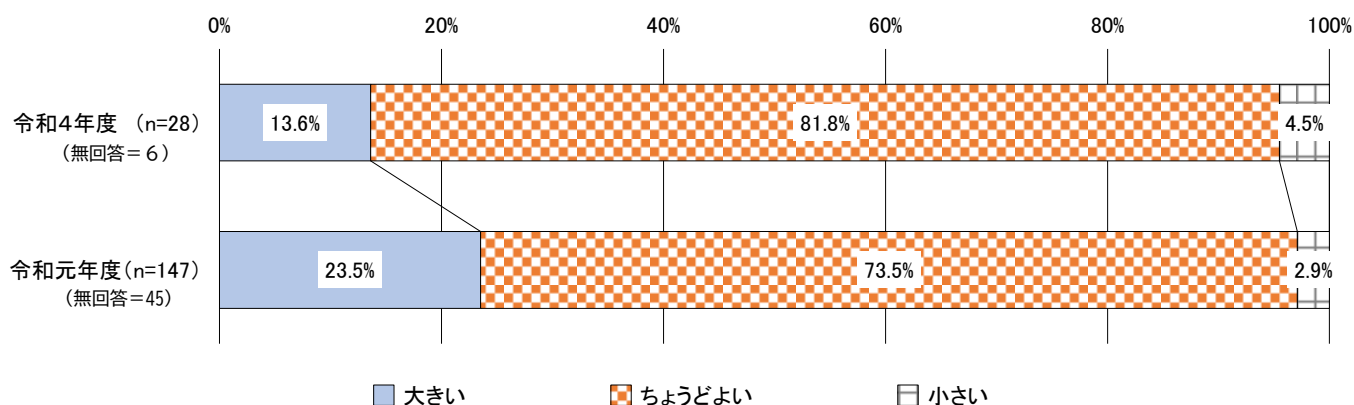
支え手帳の大きさについては、「ちょうどよい」が81.8%、「大きい」が13.6%となっています。「小さい」については4.5%に留まっています。

令和元年度調査では、「ちょうどよい」が73.5%、「大きい」が23.5%となっています。「小さい」については2.9%に留まっています。

令和元年度調査と比較すると、大きな変化はありませんが、「大きい」の割合が減少し、「ちょうどよい」の割合が増加しています。

当初は大きいと感じていた方も、使用していくうちにちょうどよいと感じる方が増加したことがわかります。

経年比較



(8) ケースについて

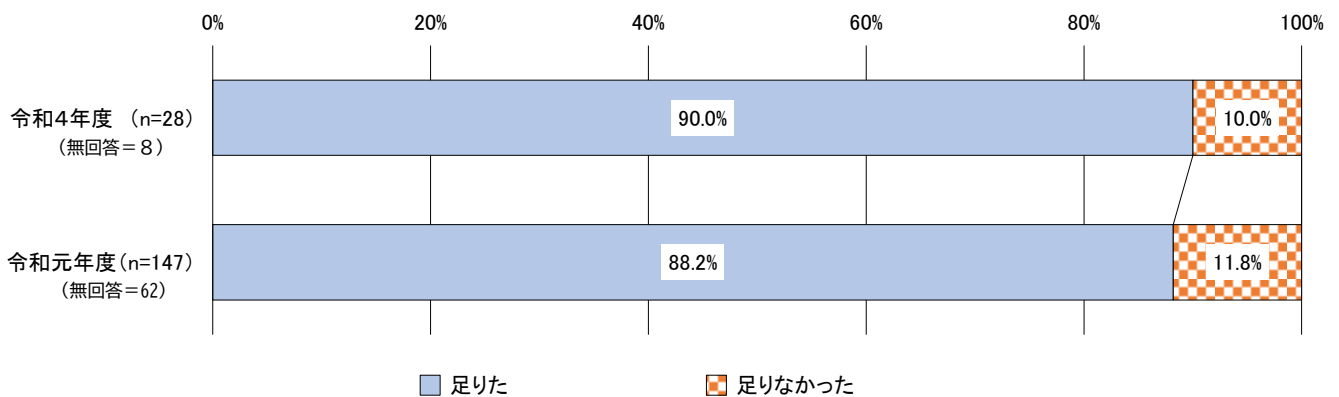
問8 ファスナーケースはひとつで足りましたか。(○は1つだけ)

ファスナーケースについては、ひとつで「足りた」が90.0%、「足りなかった」が10.0%となっています。

令和元年度調査では、ひとつで「足りた」が88.2%、「足りなかった」が11.8%となっています。

令和元年度調査と比較すると、ほぼ同じ割合となっていますが、「足りた」は若干増加しています。

経年比較



(9) ケースに収めたもの

問9 ファスナーケースに収納したものは何ですか。(〇はいくつでも)

ファスナーケースに収納したものについては、「お薬手帳、薬の説明書など」が50.0%と最も多く、次いで「各種保険証等」(35.7%)、「診察券」、「検査結果控えなど」(ともに28.6%)の順に続いています。

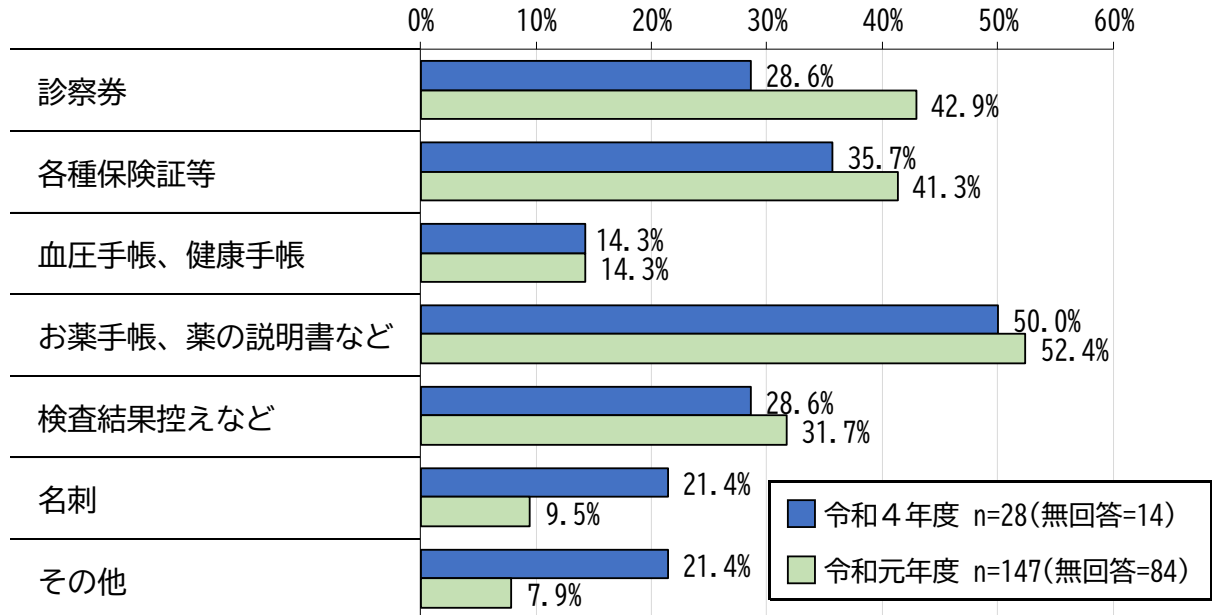
令和元年度調査では、「お薬手帳、薬の説明書など」が52.4%と最も多く、次いで「診察券」が42.9%、「各種保険証等」が41.3%の順に続いています。

令和元年度調査と比較すると、「お薬手帳、薬の説明書など」の割合はほぼ同じとなっていますが、「診察券」は14.3ポイント減少しています。

「診察券」、「各種保険証等」が減少していることから、利用を続けるうちに医療機関受診の際に頻繁に利用するこれらのものは別に収納される方が多くなったことが分かります。

また、名刺が増加傾向にあるのは、名刺入れなどを持たない方にとって、支え手帳が保管にちょうど良い存在であったことが伺えます。

経年比較



(10) バインダーに綴じたもの

問 10 2穴バインダーに、追加で綴じたものはありますか。(○はいくつでも)

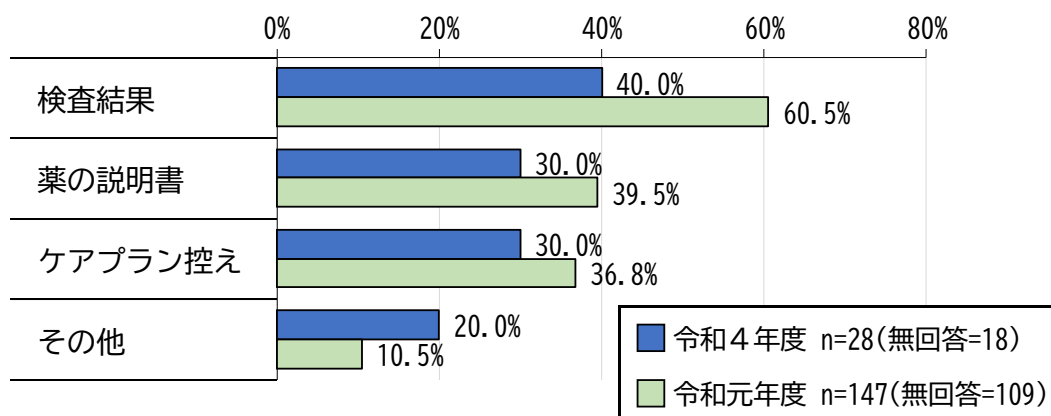
2穴バインダーに追加で綴じたものについて、「検査結果」が40.0%と最も多く、次いで「薬の説明書」、「ケアプラン控え」(ともに30.0%)の順が続いています。

令和元年度調査では、「検査結果」が60.5%と最も多く、次いで「薬の説明書」が39.5%、「ケアプラン控え」が36.8%の順が続いています。

令和元年度調査と比較すると、「検査結果」では20.5ポイント減少しています。

全体的に追加で綴じたものは減少しており、利用を続けるうちに綴じる利点がない、もしくは他の方法で保管したいといった希望があったことが分かります。しかし、3～4割ほどの方は引き続き検査結果や薬の説明書を綴じており、バインダー式である支え手帳を有効に活用していることも伺えます。

経年比較



(11) 持ち運び

問 11 支え手帳のついたバインダー形式は持ち運びには便利でしたか。(○は1つだけ)

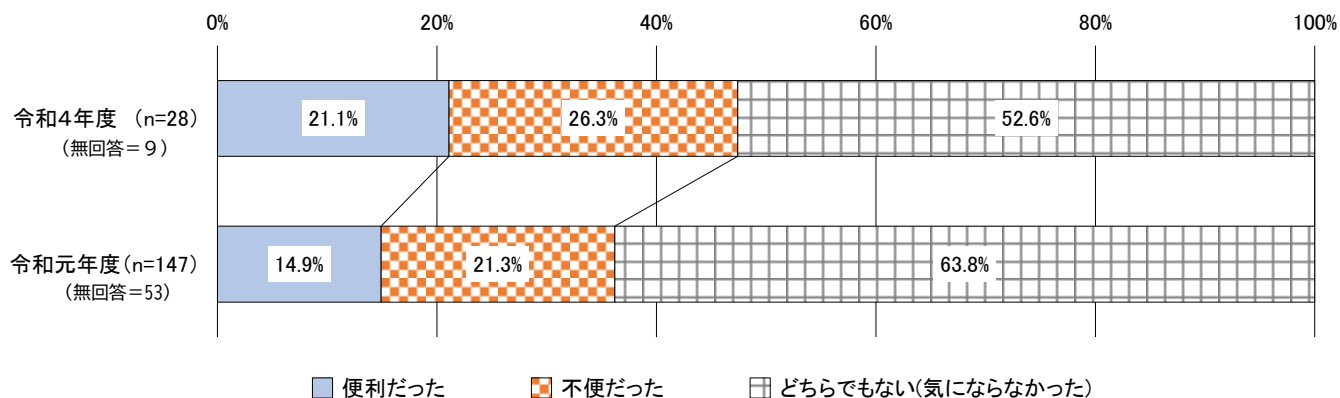
支え手帳の持ち運びについては、「どちらでもない(気にならなかった)」が52.6%と最も多く、次いで「不便だった」が26.3%、「便利だった」が21.1%の順に続いています。

令和元年度調査では、「どちらでもない(気にならなかった)」が63.8%と最も多く、次いで「不便だった」が21.3%、「便利だった」が14.9%の順に続いています。

令和元年度調査と比較すると、「不便だった」は5.0ポイント、「便利だった」は6.2ポイントそれぞれ増加しています。

支え手帳のついたバインダー形式の持ち運びについては、便利だったと感じる方と、不便だったと感じる方が両項目共に増加傾向にあり、それぞれの利用状況によって両側面での感じ方があったことがわかります。

経年比較



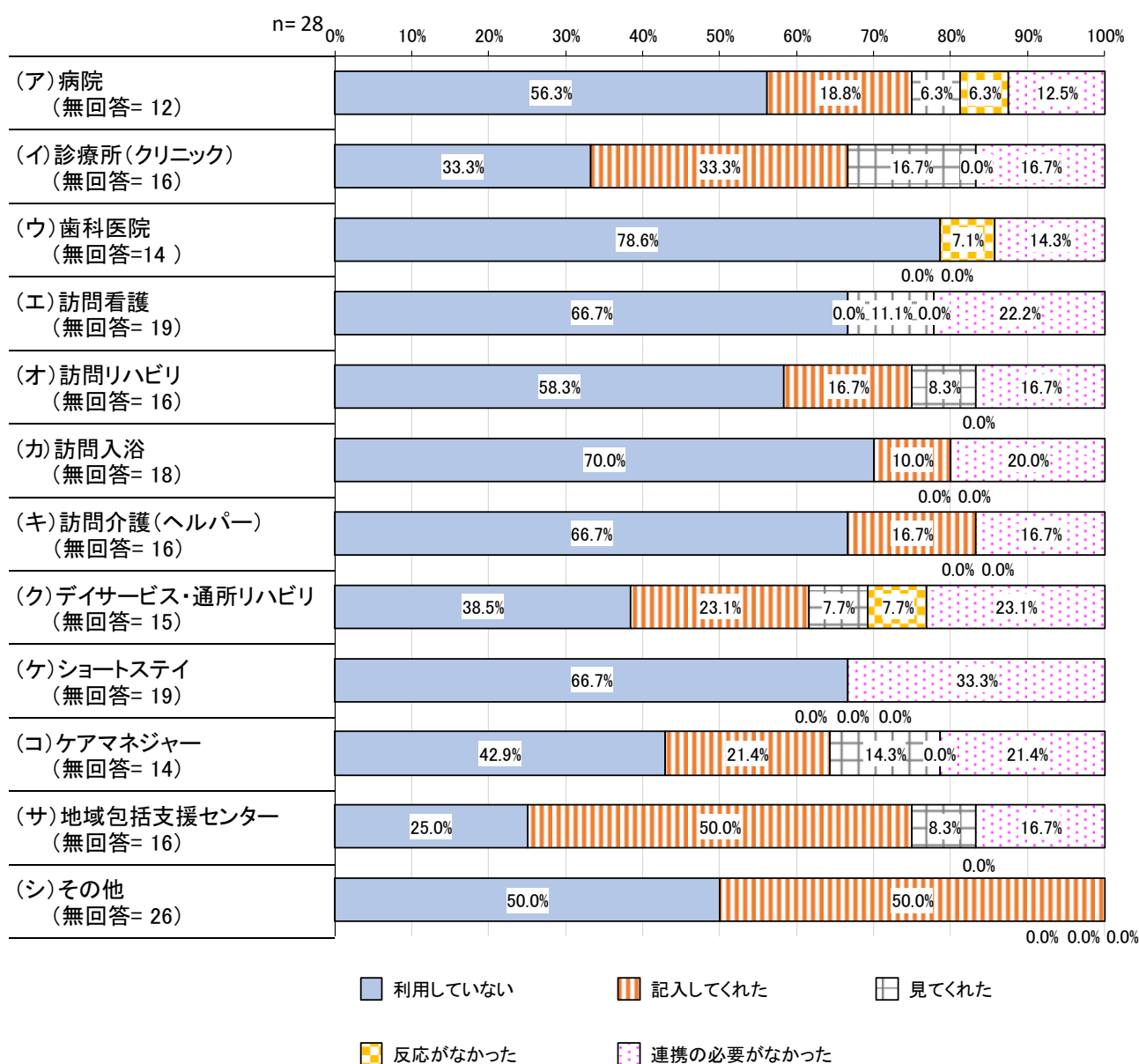
3 医療機関・施設の対応

(1) 医療機関・施設側が役立てていたか

問 12 医療機関等と介護サービス事業者のうち、支え手帳を見たり、記入してくれるなど役立てていたかどうか教えてください。(○はそれぞれ1つだけ)

医療機関等や介護サービス事業者が手帳を役立てていたかについては、“記入してくれた”が最も多いのは「地域包括支援センター」で50.0%となっており、次いで「診療所(クリニック)」(33.3%)、「デイサービス・通所リハビリ」(23.1%)の順に続いています。

“利用していない”が最も多いのは「歯科医院」で78.6%、次いで「訪問入浴」(70.0%)、「訪問看護」(66.7%)、「訪問介護(ヘルパー)」(66.7%)、「ショートステイ」(すべて66.7%)となっています。



(2) サービス向上の実感

問 13 支え手帳を医療と介護の職員に見せたことで、ご自分とご家族へのサービスが向上したと感じましたか。(○は1つだけ)

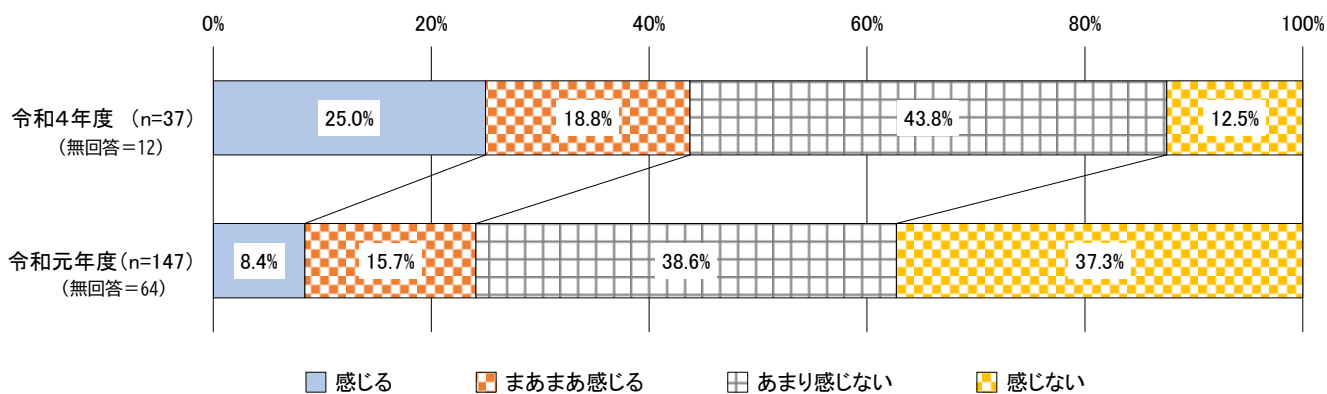
手帳を利用することでのサービス向上の実感としては、「あまり感じない」が43.8%と最も多く、次いで「感じる」(25.0%)、「まあまあ感じる」(18.8%)の順に続いています。「感じる」「まあまあ感じる」を合わせた43.8%がサービス向上を実感しています。

令和元年度調査では、「あまり感じない」が38.6%と最も多く、次いで「感じない」が37.3%、「まあまあ感じる」が15.7%の順に続いています。「感じる」「まあまあ感じる」を合わせた24.1%がサービス向上を実感しています。

令和元年度調査と比較すると、「感じる」「まあまあ感じる」を合わせた割合は、24.1%(令和元年度)から43.8%(令和4年度)と、19.7ポイント増加しています。

サービス向上の実感を「感じない」と答えた方が大幅に減少していることから手帳の利用を続けた方はサービス向上の実感があることがわかります。

経年比較

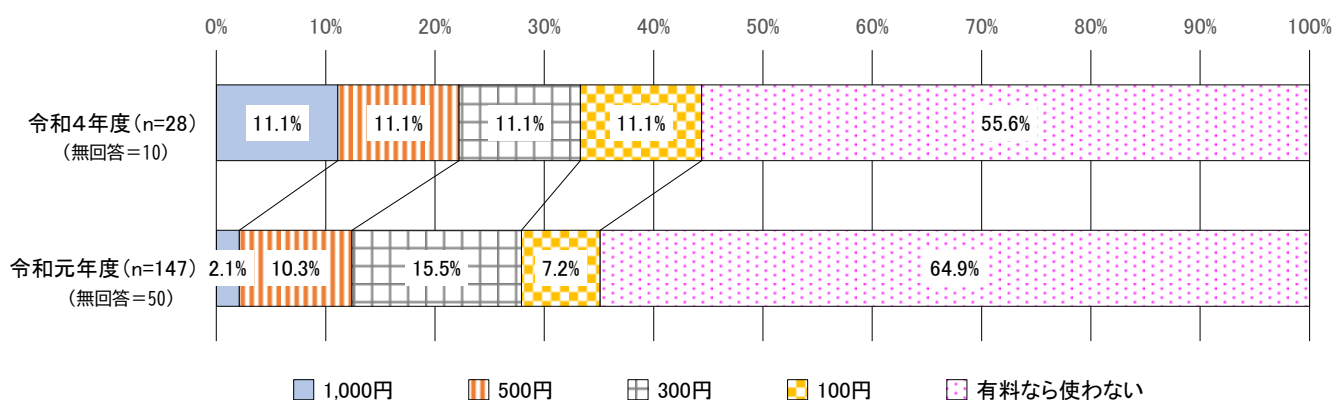


(3) 支え手帳にかかる料金

問 14 支え手帳が有料でも使いますか。有料の場合、妥当だと感じる金額は。
(○は1つだけ)

支え手帳の料金について、「有料なら使わない」が55.6%と最も多くなっています。
令和元年度調査においても、「有料なら使わない」が64.9%と最も多い結果となっています。
令和元年度調査と比較すると、「有料なら使わない」の割合は64.9%（令和元年度）から55.6%（令和4年度）と9.3ポイント減少しています。
有料でも利用したいと感じている方が増加しており、支え手帳に価値を感じている方が増加していることが伺えます。

経年比較



4 未利用の理由

(1) 未利用の理由

問 15 支え手帳を利用しなかった場合の理由を教えてください。(〇はいくつでも)

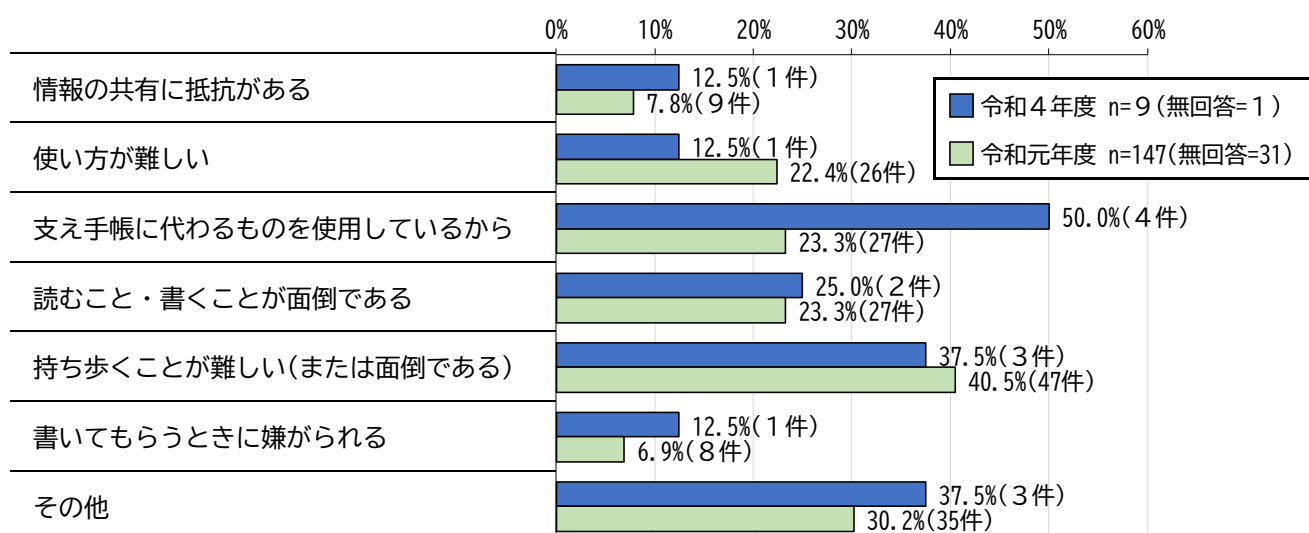
支え手帳を利用しなかった理由としては、「支え手帳に代わるものを使用しているから」が50.0%と最も多く、次いで「持ち歩くことが難しい(または面倒である)」(37.5%)、「読むこと・書くことが面倒である」(25.0%)の順に続いています。

令和元年度調査では、「持ち歩くことが難しい」が40.5%と最も多く、続いて「その他」(30.2%)、「既に情報をまとめ、使っているものがある」、「読むこと・書くことが面倒である」(ともに23.3%)の順に続いています。

令和元年度調査と比較すると、「支え手帳に代わるものを使用しているから」(令和元年度調査では「既に情報をまとめ、使っているものがある」)の割合は、23.3%(令和元年度)から50.0%(令和4年度)と26.7ポイント増加しています。

「使い方が難しい」の割合が減少している一方、支え手帳に代わるものを使用している傾向が多くなっており、さまざまなものを集約するといった役割を担うことが難しいケースがあったことが伺えます。「持ち歩くことが難しい」の割合は変化があまりみられないことから、利用しなかった理由として手帳の大きさを挙げる方が一定数いることがわかります。

経年比較



5 救急搬送の有無

(1) 救急搬送の有無

問 16 利用期間中に、救急車を呼んだことはありましたか。(○は1つだけ)

利用期間中に救急搬送されたことは、「あった」が29.6%、「なかった」が70.4%となっています。

救急搬送が「あった」と答えた方の搬送回数については、「1回」が62.5%、「2回」が12.5%、「3回」が25.0%となっています。

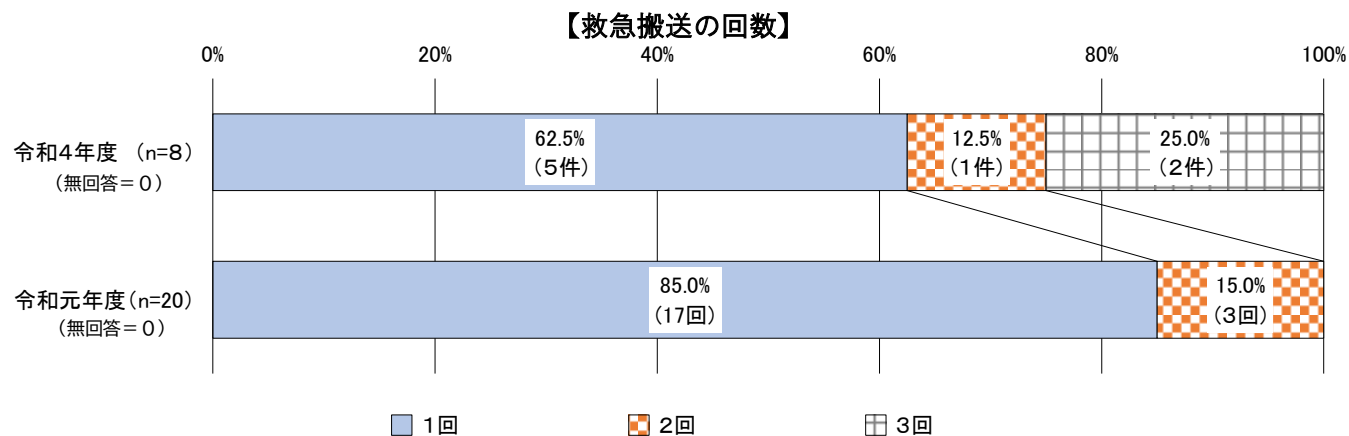
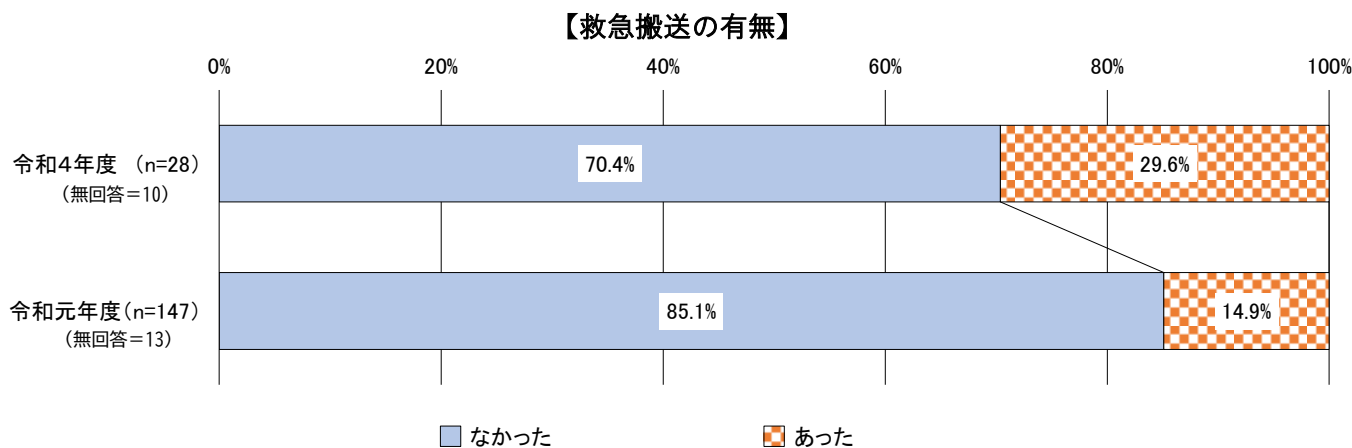
令和元年度調査では、「あった」が14.9%、「なかった」が85.1%となっています。

救急搬送が「あった」と答えた方の搬送回数については、「1回」が85.0%、「2回」が15.0%となっています。

令和元年度調査と比較すると、「あった」の割合は、14.9%（令和元年度）から29.6%（令和4年度）と14.7ポイント増加しています。

利用者が年齢を重ねていることから、救急搬送が増加傾向にあります。

経年比較



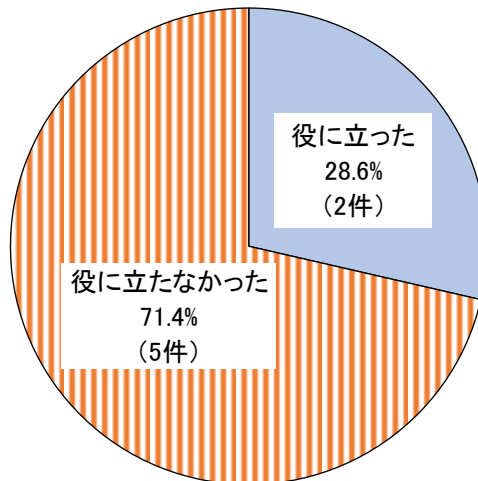
※救急搬送の回数の「3回」については、令和元年度は調査無し

(2) 救急搬送時に支え手帳が役立ったか

問 17 【問 16 で「あった」と回答した方に伺います。】

救急車を呼んだ時に『支え手帳』は役にたちましたか。(○は1つだけ)

救急搬送時に支え手帳が役立ったかについては、「役に立った」が 28.6%、「役に立たなかった」が 71.4%となっています。



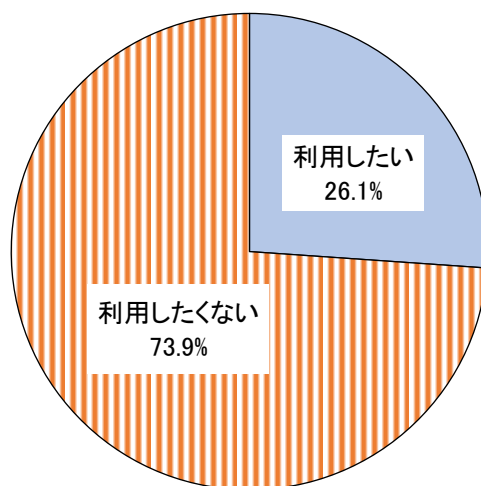
n= 8
(無回答=1)

6 スマートフォン等を活用した医療・介護との連携について

(1) スマートフォン等を活用した医療・介護との連携

問 18 医療や介護の関係者と連携する際、スマートフォンやパソコンを活用した情報共有ができるものがあれば利用したいと思いますか。(○は1つだけ)

医療・介護との連携におけるスマートフォン等の活用意向については、「利用したい」が26.1%、「利用したくない」が73.9%となっています。

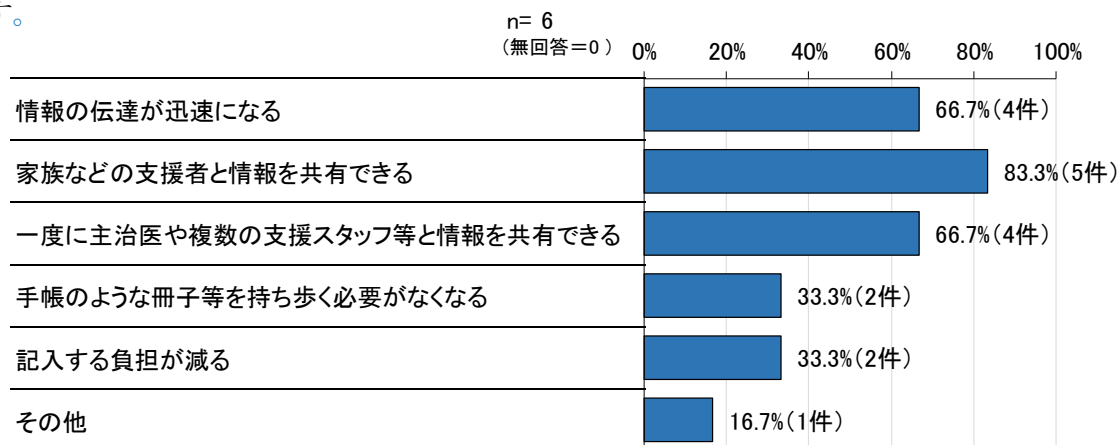


n= 37
(無回答=14)

(2) スマートフォン等を活用した医療・介護との連携を利用したい・したくない理由

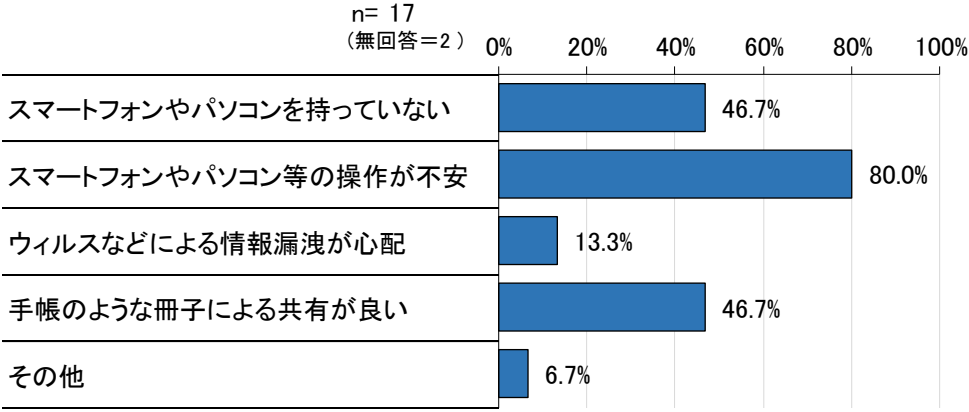
問 19 【問 18 で「利用したい」と回答した方に伺います。】
その理由を教えてください。(○はいくつでも)

スマートフォン等を活用した医療・介護との連携を利用したい理由については、「家族などの支援者と情報を共有できる」が83.3%で最も多く、次いで「情報の伝達が迅速になる」、「一度に主治医や複数の支援スタッフ等と情報を共有できる」(ともに66.7%)の順に続いています。



問 20 【問 18 で「利用したくない」と回答した方に伺います。】
その理由を教えてください。(〇はいくつでも)

スマートフォン等を活用した医療・介護との連携を利用したくない理由については、「スマートフォンやパソコン等の操作が不安」が 80.0%で最も多く、次いで「スマートフォンやパソコンを持っていない」、「手帳のような冊子による共有が良い」(ともに 46.7%) の順に続いています。

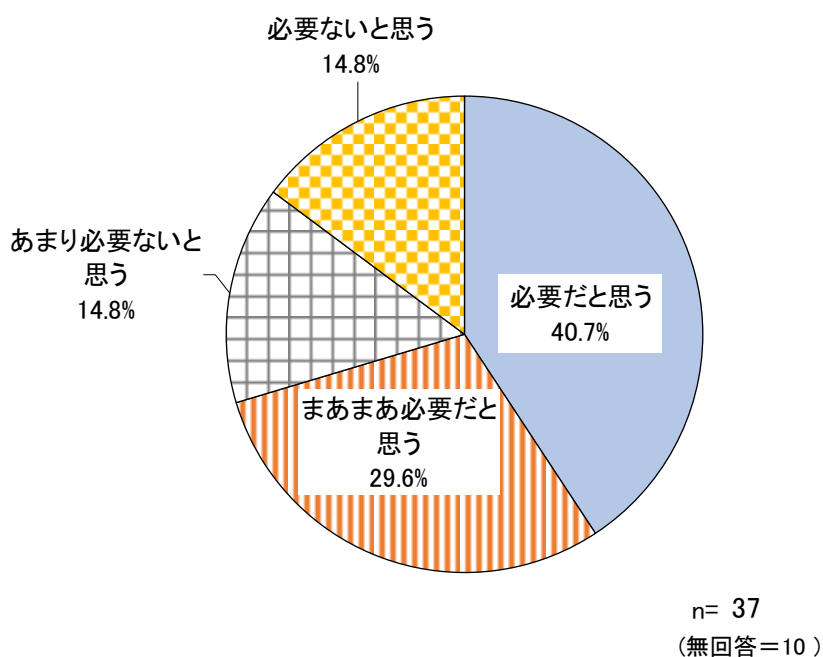


7 情報共有ツールの必要性について

(1) 情報共有ツールの必要性について

問 21 支え手帳のように、ご本人・ご家族・医療従事者・介護従事者が情報を共有し、連携できるものは必要だと思いますか。(○は1つだけ)

情報共有ツールの必要性については、「必要だと思う」が40.7%と最も多く、「必要だと思う」と「まあまあ必要だと思う」を合計した『必要だと思う』は70.3%となっています。一方、「必要ないと思う」と「あまり必要ないと思う」を合計した『必要ないと思う』は29.6%となっています。



8 自由回答

(1) 支え手帳に関する意見や要望

問 22 支え手帳に関するご意見やご要望がありましたら、どんなことでもご自由にご記入ください。

■要旨の抜粋

○書いてもらうことに気が引ける

- ・かかり付けの医師に依頼するのも気が引ける（多忙の先生方に）常に依頼していない。
- ・手帳のあつかいが、むずかしかった。厚く持運びにかさばります。書く項目がたくさんあり、すぐには書き込めない。医師の記入欄もありなかなか出しづらかった。

○使用しての感想

- ・緊急時に役立ちました。
- ・大きさも大きく、持ち出すことはなかった。利用開始時は、記入ができていたが、ご本人が記入することができなく、持ちだすことができていなかった。又家族の利用方法の理解があまりなかったようです。
- ・支え手帳をみればすぐに本人の状況がわかるモデルケースになったらいいと。ナンバリングなどされてすぐに役所でも情報共有できたら独居の方にとってはよいのでは。本人に丁寧に説明して下さり、やる気もでて検査結果をまとめたり、これをみたらいいんだという安心感が生まれた。身のまわりのせいとんの機会にもなり、だれもがみてわかるのがとても良いと感じました。
- ・支え手帳がなくてもお薬手帳で充分現在の体の状態や、医療機関の利用状況も充分わかるのでお薬手帳の充実化をして戴いた方が良い。

○あまり活用できなかった

- ・これまであまり支え手帳を活用できませんでした。今後、活用していけたらと思います。
- ・現在はデイサービスやショートステイを利用している。支え手帳を頂いた時には色々と記入したが、その後はあまり見ることもない。母の介護をした時も、初めに色々と記入したが、介護サービスを利用する時一度ケアマネジャーと相談する時に記入したりしたがその後はあまり開くことはなかった。もう少し工夫やみやすさが必要と思います。

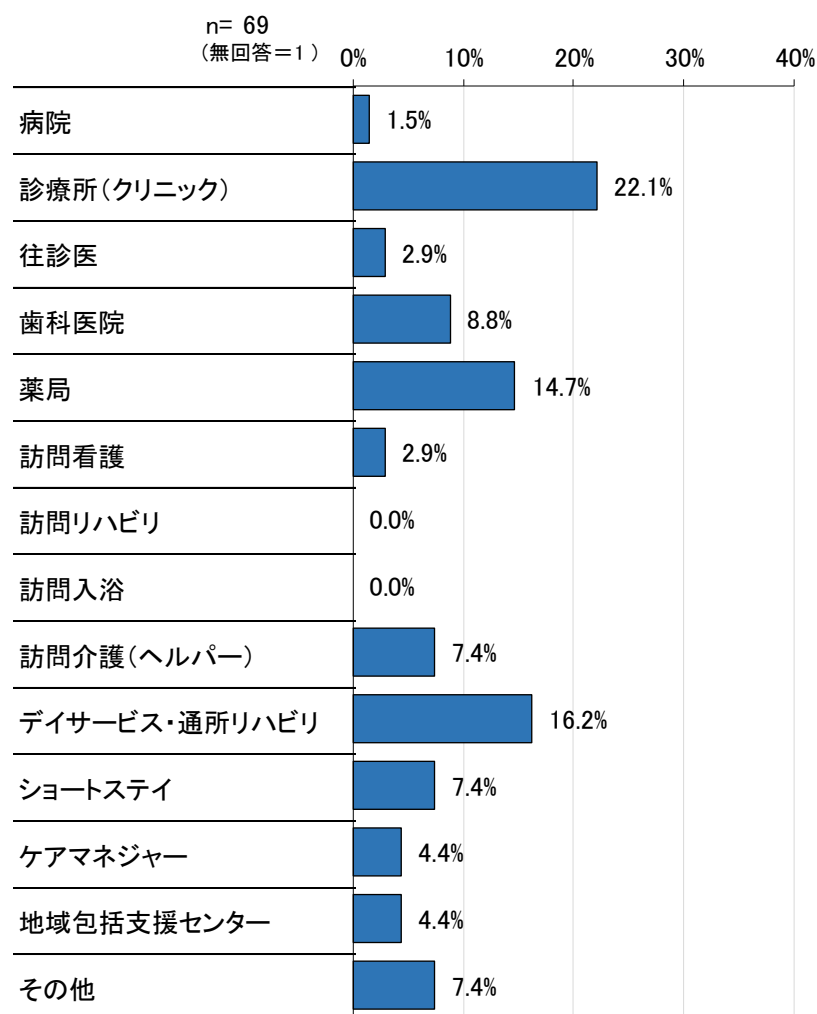
Ⅲ 支え手帳関係機関アンケート（一次モデル事業）

1 基本属性

（1）事業サービスの種別

問1 あなたの事業所で行っているサービスに、一番近いものに○印をつけてください。（○は1つだけ）

回答を得られた関係機関の事業種別で最も多かったのは「診療所(クリニック)」で22.1%、次いで「デイサービス・通所リハビリ」(16.2%)、「薬局」(14.7%)、「歯科医院」(8.8%)の順に続いています。



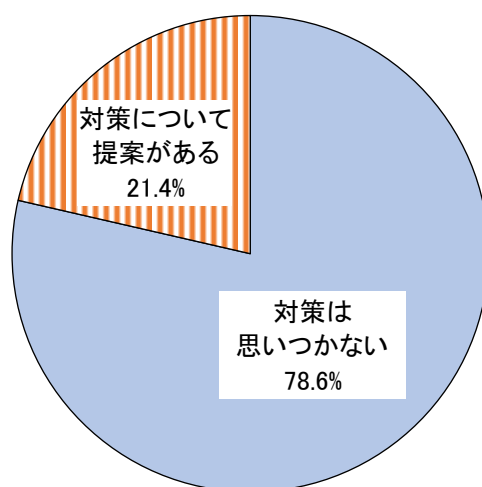
2 支え手帳を希望しない方への対策について

(1) 支え手帳を希望しない方への対策に関する提案

問2 支え手帳を希望しない方の理由として「読むこと、書き込むことが難しい」が最多でした。この対策についてお考えをお聞かせください。(〇は1つだけ)

支え手帳を希望しない方への有効な対策については、21.4%の事業所から「提案がある」との回答を得ています。

具体的な提案内容は以下の通りとなります。



n= 69
(無回答=13)

■提案内容の抜粋

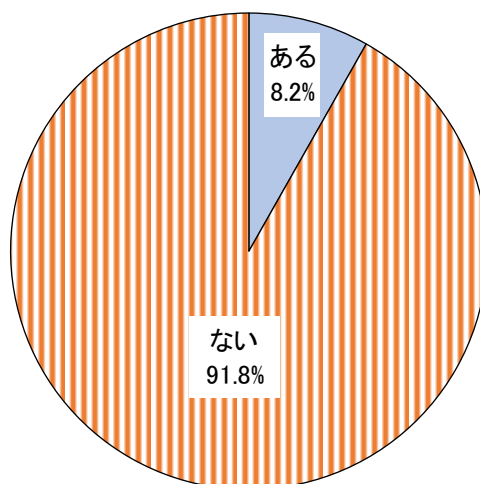
- ・たとえばある年齢になったら市の方から支え手帳を自宅に送付する。早い段階から使用しないとほんとうにこまった時には使えないのではと思う。
- ・手帳が小さくて持ちやすいが、書き込みスペースも狭いので記入しづらいので広くすれば良いのではないか。
- ・読むことが出来る方はチェック（レ点）方式が良いと思います
- ・必要な情報をコンパクトに収める。
- ・情報を必要とするのは、ご本人というよりは、関係機関側だと思うので、例えばweb上で関係機関の間で共有できるツールの方が、書きこむ手間も省け、常に最新情報が共有できるような気がします。
- ・もう少しシンプルな構成で、薄くていいと思います。チェックするところがすぐわかると思います。
- ・読みやすく、記入しやすい物にすれば良いと思います。その前に世間へ認知させる事が先だと思います。(お薬手帳ぐらいの認知度になればと)

3 支え手帳に代わる連携システムについて

(1) 支え手帳に代わる連携システムの有無

問3 貴事業所が使用している「支え手帳」に代わる連携に関するシステムがありますか。(主催でなく参加しているものでも良いです)(○は1つだけ)

支え手帳に代わる連携システムの有無については、「ある」が8.2%、「ない」が91.8%となっています。

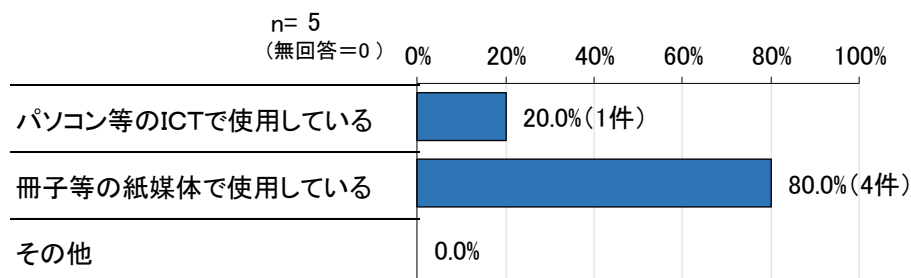


n= 69
(無回答=8)

(2) 支え手帳に代わる連携システムについて

問4 【問3で「ある」と回答した方にお伺いします。】
使用しているシステムについて詳しく教えてください。(○はいくつでも)

使用している連携システムについては、「冊子等の紙媒体で使用している」が80.0%、「パソコン等のICTで使用している」が20.0%となっています。

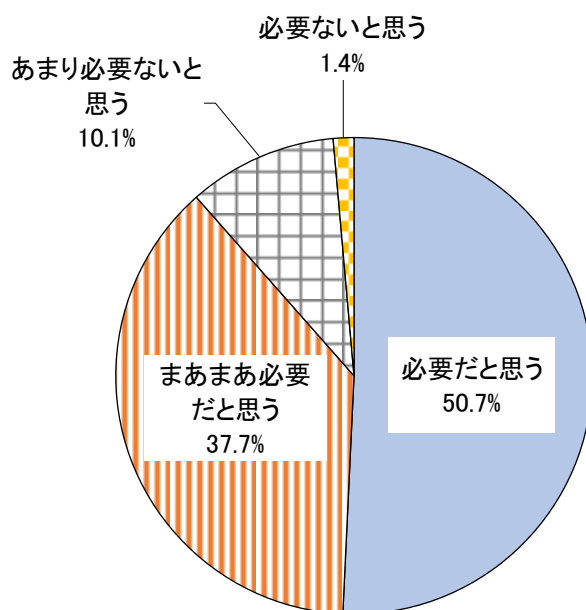


4 情報共有ツールの必要性について

(1) 情報共有ツールの必要性について

問5 支え手帳のように、ご本人・ご家族・医療従事者・介護従事者が情報を共有し、連携できるものは必要だと思いますか。(○は1つだけ)

情報共有ツールの必要性については、「必要だと思う」が50.7%と最も多く、「必要だと思う」と「まあまあ必要だと思う」を合計した『必要だと思う』は88.4%となっています。一方、「必要ないと思う」と「あまり必要ないと思う」を合計した『必要ないと思う』は11.5%となっています。



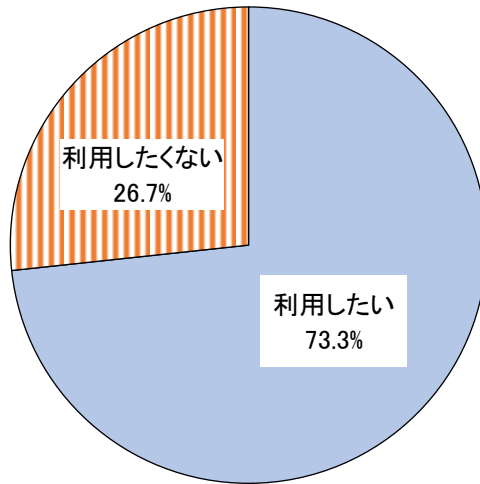
n= 69
(無回答=0)

5 スマートフォン等を活用した医療・介護との連携について

(1) スマートフォン等を活用した医療・介護との連携

問6 医療や介護の関係者と連携する際、スマートフォンやパソコンを活用した情報共有ができるものがあれば利用したいと思いますか。(○は1つだけ)

医療・介護との連携におけるスマートフォン等の活用意向については、「利用したい」が73.3%、「利用したくない」が26.7%となっています。

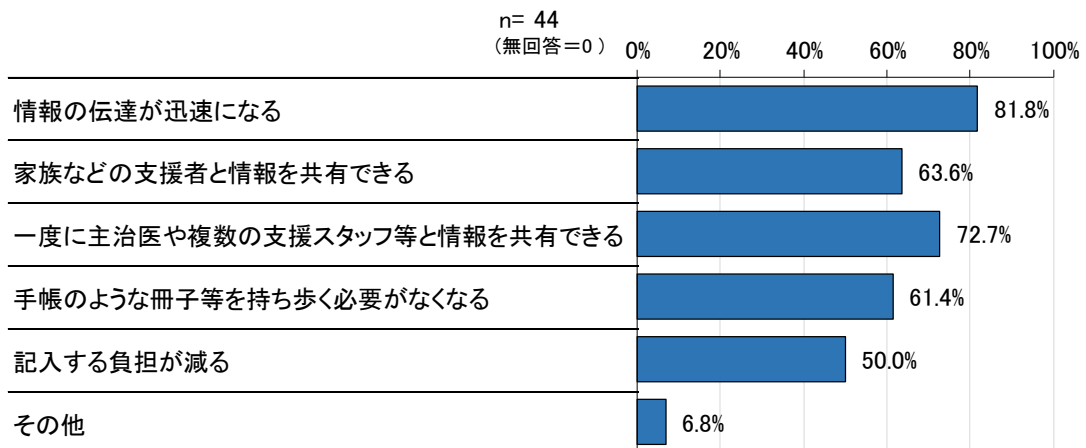


n= 69
(無回答=9)

(2) スマートフォン等を活用した医療・介護との連携を利用したい・したくない理由

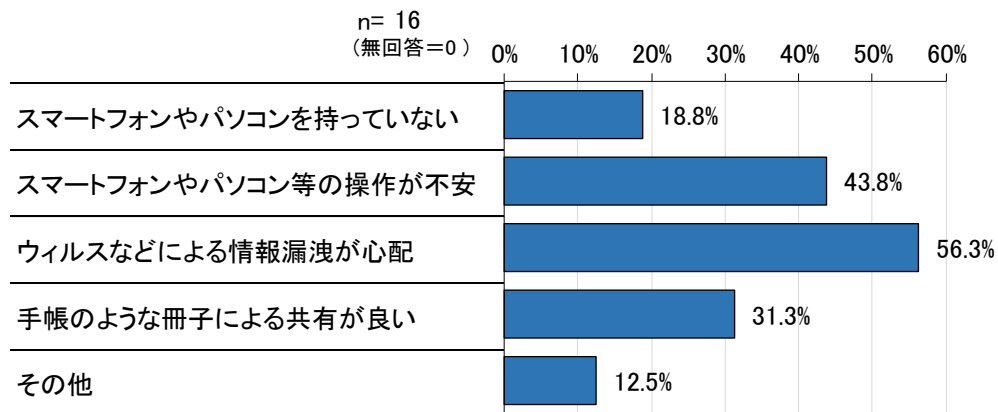
問7 【問6で「利用したい」と回答した方に伺います。】
その理由を教えてください。(○はいくつでも)

スマートフォン等を活用した医療・介護との連携を利用したい理由については、「情報の伝達が迅速になる」が81.8%で最も多く、次いで「一度に主治医や複数の支援スタッフ等と情報を共有できる」(72.7%)、「家族などの支援者と情報を共有できる」(63.6%)の順に続いています。



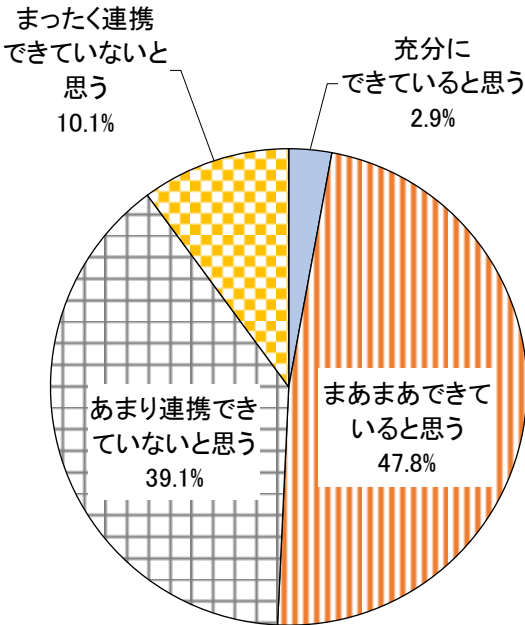
問8 【問6で「利用したくない」と回答した方に伺います。】
その理由を教えてください。(〇はいくつでも)

スマートフォン等を活用した医療・介護との連携を利用したくない理由については、「ウイルスなどによる情報漏洩が心配」が56.3%で最も多く、次いで「スマートフォンやパソコン等の操作が不安」(43.8%)、「手帳のような冊子による共有が良い」(31.3%)の順に続いています。



問9 貴事業所と医療・介護の関係機関との連携について、現在はできていると思いますか。(○は1つだけ)

医療・介護との連携ができているかについては、「十分にできていると思う」と「まあまあできていると思う」を合わせた『できていると思う』は50.7%となっています。



n= 69
(無回答=0)

6 自由回答

(1) 支え手帳に必要な情報やツールについて

問 10 支え手帳に必要な情報や、ツールについてお考えをお聞かせください。

■要旨の抜粋

- ・保険証、薬手帳等同じサイズの小さなノートをチャック付のビニール袋に入れ利用してはどうか。
- ・必要な情報→状態や環境などの変化について
- ・病気、薬、身体状況、家族、スマートフォンで出来ると良い。
- ・1週間の日程など（訪問リハ・内科・デイサービスなど）・ご本人の好きな話題、嫌いな話題など・ご本人の昔の職業ややっていたスポーツなども分かると話すキッカケになる。
- ・ご本人の血液型、アレルギー等の情報を記載する欄。
- ・実際に記入した際の状態がわかるような記入例があると、初めて使用する場合でも「書き方」で悩まずに要領よく記入できるかと思います。
- ・補聴器を使用している側から話しかけることが多いため、「補聴器」の欄に「右、左、両耳」の選択肢があるといいと思います。

(2) 支え手帳の形式や配布方法について

問 11 支え手帳の形式や配布方法について、または感想等をお聞かせください。

■要旨の抜粋

- ・試みとしては良かったが、大きさの問題、人により必要な情報が異なる点など、対応が求められる。
- ・薬局として日常生活は直接見れないので、介護サービスの方の情報は、本人の体調を把握する上で役に立ちます。
- ・試みとしては良いと思います。ご本人様の情報が一冊にまとまっていると、関係機関で共有しやすくなると思います。反面、手書きは書き込む手間と、情報が更新されない恐れもあるため、スマートフォンやタブレット等で共有できるツールがあれば良いようにも感じました。
- ・介護職員や、ソーシャルワーカーにとって、記載が手間になると考えています。
- ・持ち歩ける、持ち歩こうと思えるサイズ形式が必要と思います。
- ・介護保険主治医意見書の依頼を出す時点で支え手帳の希望の有無を確認するか、要支援・要介護認定のある方全員に配布し、ご本人・ご家族ともに早い段階から支え手帳を使用し、慣れることにより、支え手帳に対する「手間感」を軽減することができるのではと思います。
- ・本当に必要になる前の「準備期間・練習期間」があると、実際に使用する際のハードルが下がり、より有効的に活用できるかと思います。

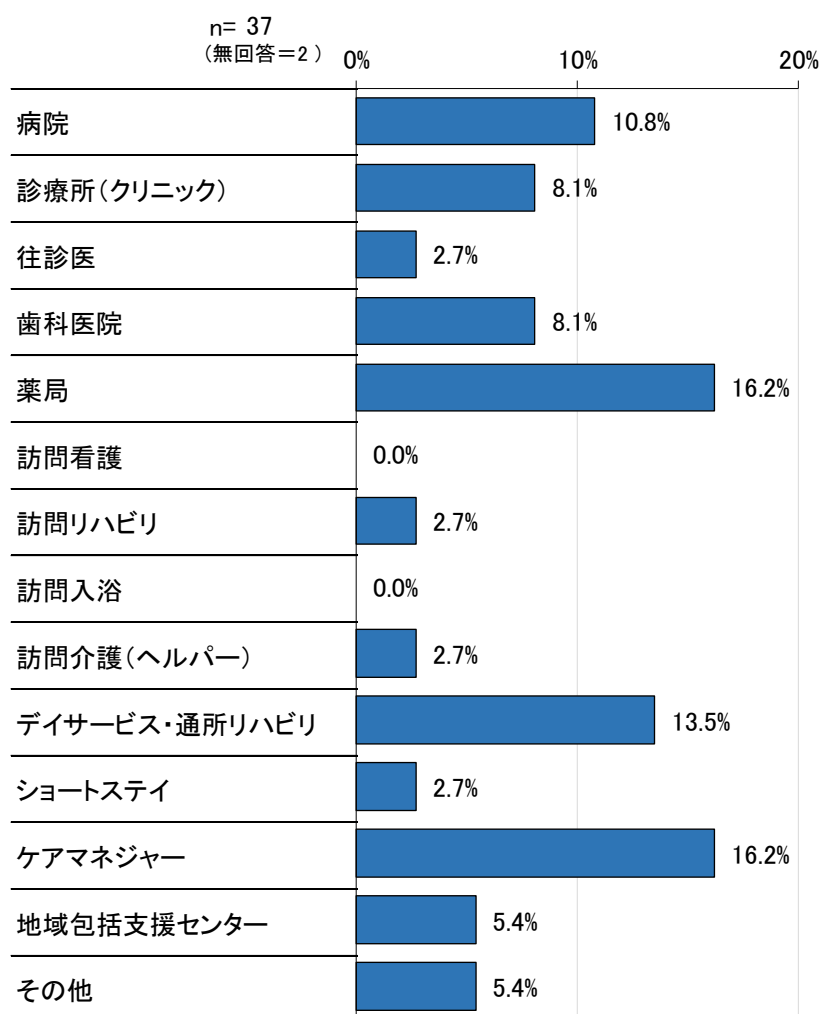
IV 支え手帳関係機関アンケート（二次モデル事業）

1 基本属性

（1）事業サービスの種別

問1 あなたの事業所で行っているサービスに、一番近いものに○印をつけてください。（○は1つだけ）

回答を得られた関係機関の事業種別で最も多かったのは「薬局」、「ケアマネジャー」がそれぞれ16.2%、次いで「デイサービス・通所リハビリ」（13.5%）、「病院」（10.8%）の順に続いています。



2 支え手帳の活用

(1) 支え手帳の活用頻度

問2 支え手帳を活用した頻度を教えてください。(○は1つだけ)

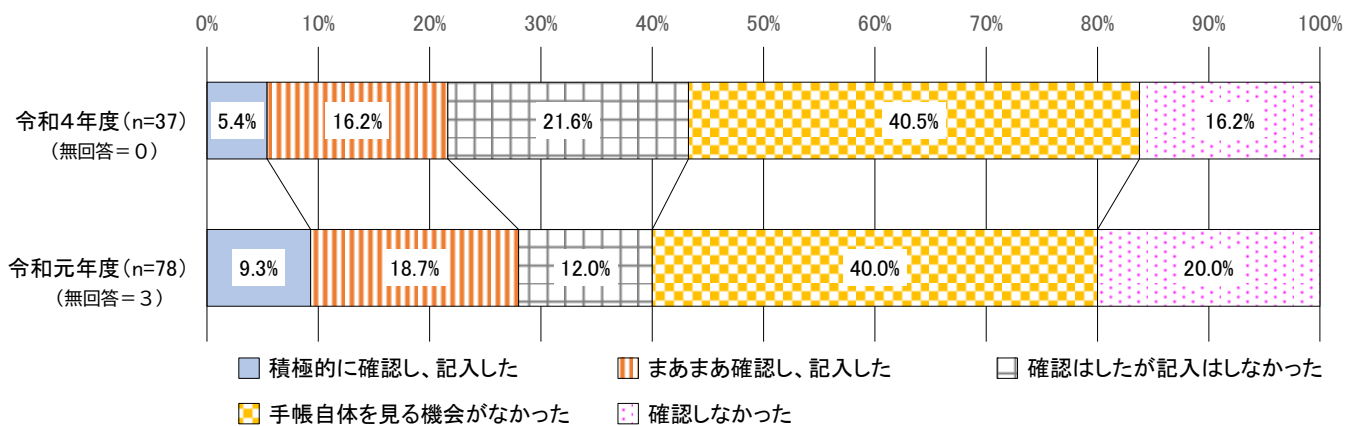
手帳を活用した頻度について、「手帳自体を見る機会がなかった」が40.5%を占めており、「確認しなかった」の16.2%と合わせると56.7%が手帳を見ていないという結果になっています。

令和元年度調査では、「手帳自体を見る機会がなかった」が40.0%を占めており、「確認しなかった」の20.0%と合わせると60.0%が手帳を見ていないという結果になっています。

令和元年度調査と比較すると、「確認はしたが記入はしなかった」で12.0%（令和元年度）から21.6%（令和4年度）と9.6ポイント増加しています。

支え手帳を活用した頻度は全体的に減少傾向にあり、積極的な利用が進んでいないことが伺えます。

経年比較



(2) 利用した場面

問3 支え手帳を利用したのは、どのような場面ですか。(○はいくつでも)

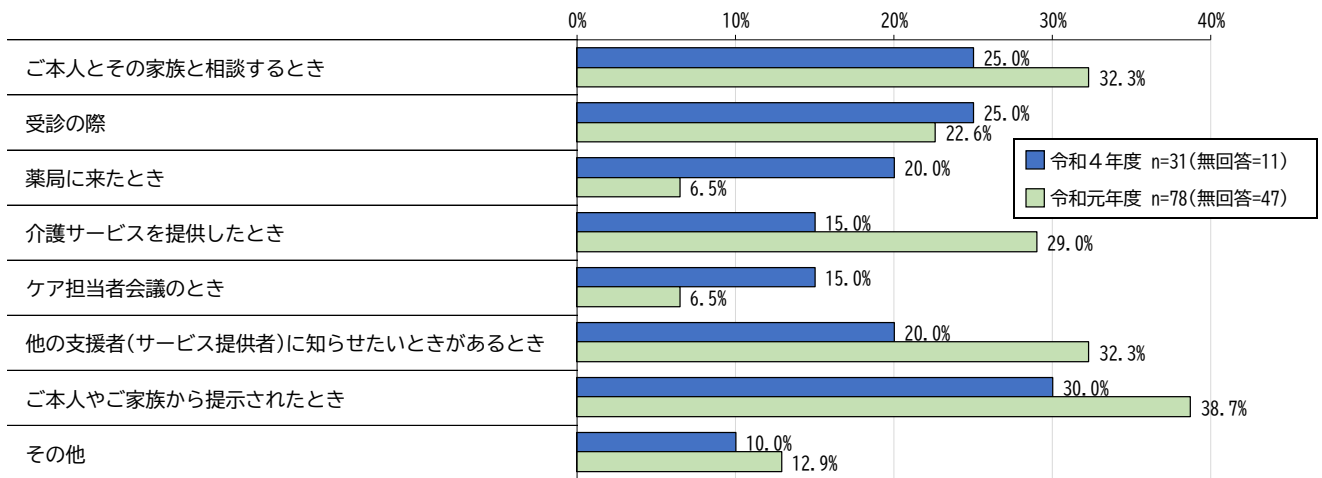
支え手帳を利用した場面について、「ご本人や家族から提示されたとき」が30.0%と最も多く、次いで「ご本人とその家族と相談するとき」、「受診の際」(ともに25.0%)の順に続いています。

令和元年度調査では、「ご本人や家族から提示されたとき」が38.7%と最も多く、次いで「ご本人とその家族と相談するとき」、「他の支援者(サービス提供者)に知らせたいことがあるとき」(ともに32.3%)の順に続いています。

令和元年度調査と比較すると、「介護サービスを提供したとき」では14.0ポイント減少、「薬局に来たとき」では13.5ポイント増加しています。

医療機関を利用の際や、ケア担当者会議での利用が増加しています。一方介護サービスの提供時では大きく減少しており、介護サービスにおいては手帳の有用性が感じられなかったことが伺えます。

経年比較



(3) 利用した箇所

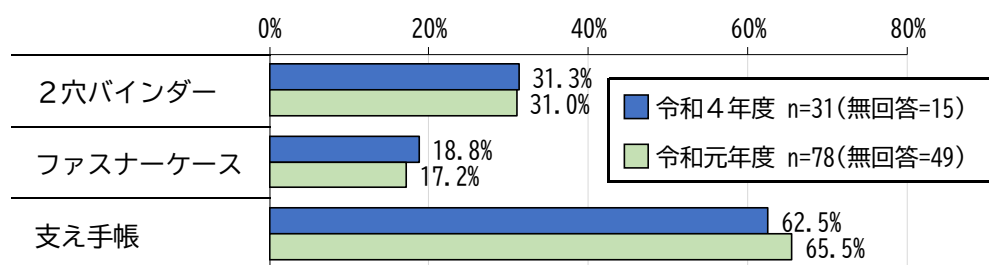
問4 よく利用したのは、ケースのどの部分ですか。(〇はいくつでも)

ケースのどの部分をよく利用したかについては、「支え手帳」(62.5%)、「2穴バインダー」(31.3%)、「ファスナーケース」(18.8%)の順に続いています。

令和元年度調査では、「支え手帳」(65.5%)、「2穴バインダー」(31.0%)、「ファスナーケース」(17.2%)の順に続いています。

令和元年度調査と比較すると、それぞれほぼ同様の割合となっています。

経年比較



(4) 利用したページ

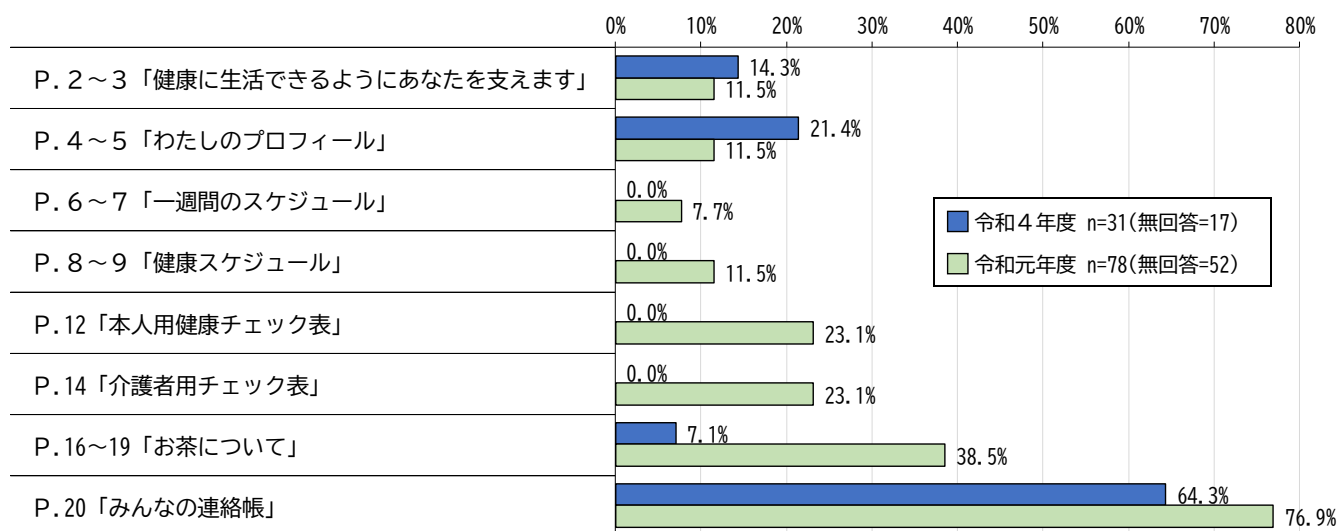
問5 支え手帳でよく見たり、記入したページはありますか。(〇はいくつでも)

よく見たり記入したページについては、「みんなの連絡帳」が64.3%で最も多く、次いで「わたしのプロフィール」(21.4%)、「健康に生活できるようにあなたを支えます」(14.3%)の順に続いています。

令和元年度調査では、「みんなの連絡帳」が76.9%で最も多く、次いで「お薬について」(38.5%)、「本人用健康チェック表」、「介護者用チェック表」(ともに23.1%)の順に続いています。

令和元年度調査と比較すると、多くの項目で減少している一方、「健康に生活できるようにあなたを支えます」と「わたしのプロフィール」は増加しています。

経年比較



(5) 大きさ

問6 支え手帳の大きさはどうですか。(○は1つだけ)

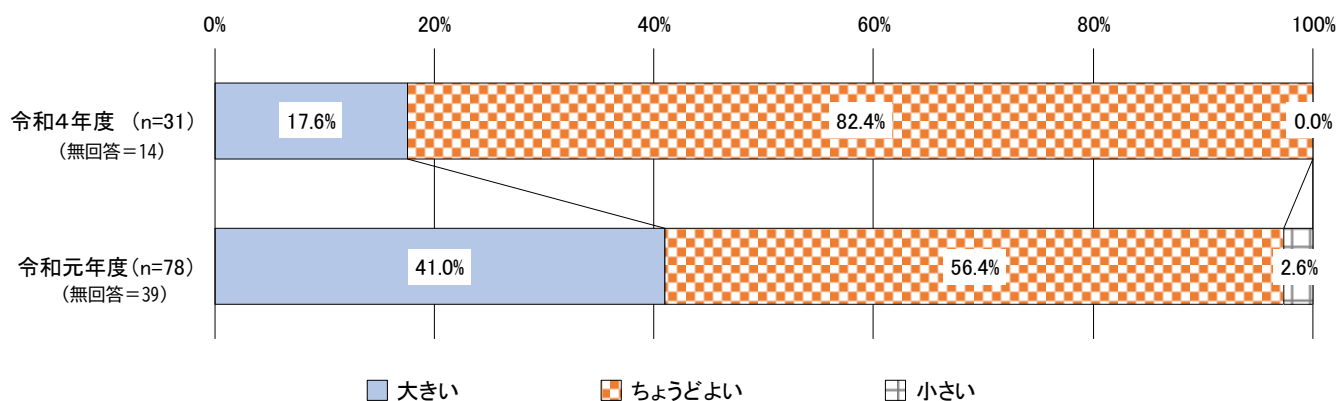
手帳の大きさについては、「ちょうどよい」が82.4%、「大きい」が17.6%、「小さい」が0.0%となっています。

令和元年度調査では、「ちょうどよい」が56.4%、「大きい」が41.0%、「小さい」が2.8%となっています。

令和元年度調査と比較すると、ちょうどよいが56.4%（令和元年度）から82.4%（令和4年度）と26.0ポイント増加しています。

利用開始当初は「大きい」と感じる方が多かったものの、利用を進めるうちに「ちょうどよい」と感じるようになってきていることがわかります。

経年比較



(6) ケース内の有用な情報

問7 ファスナーケースに収納していたもので役立つ情報は何ですか。
(○はいくつでも)

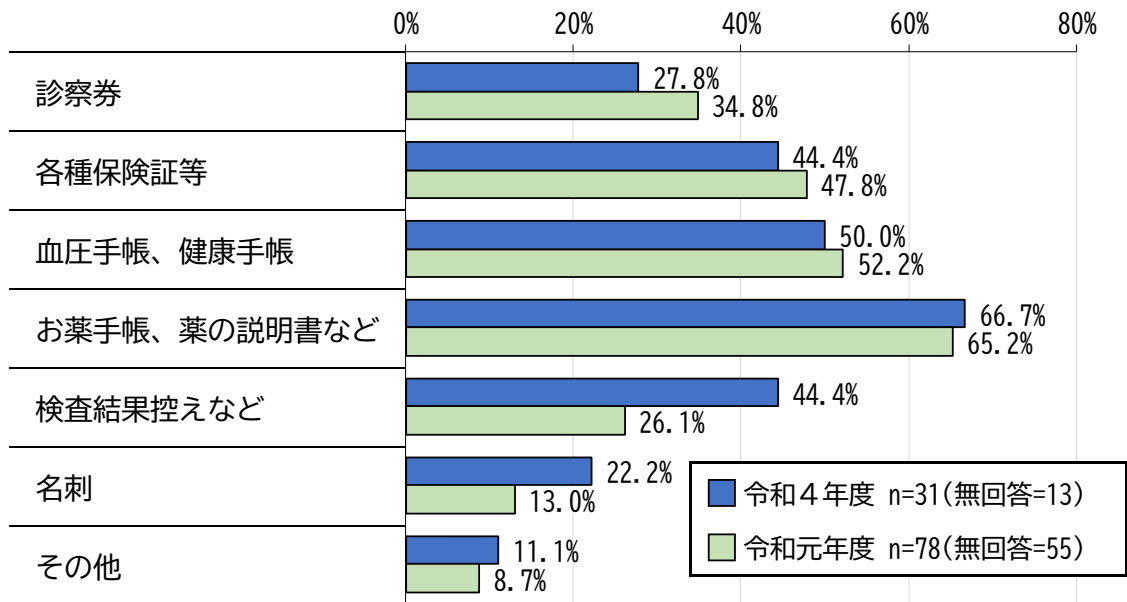
ファスナーケースに収納していたもので役立つ情報としては、「お薬手帳、薬の説明書など」が66.7%で最も多く、次いで「血压手帳、健康手帳」(50.0%)、「各種保険証等」、「検査結果控えなど」(ともに44.4%)の順に続いています。

令和元年度調査では、「お薬手帳、薬の説明書など」が65.2%と最も多く、次いで「血压手帳、健康手帳」が52.2%、「各種保険証等」が47.8%の順に続いています。

令和元年度調査と比較すると、「検査結果控えなど」では26.1%(令和元年度)から44.4%(令和4年度)と18.3ポイント増加しています。

割合に大きな変化がない項目が多い中、「検査結果控えなど」に関しては大きく増加しています。関係機関としては、普段持ち歩くことがない検査結果などを持参いただくことで診察などが円滑に進んでいるのではないかと推察されます。

経年比較



(7) 2穴バインダー内の有用な情報

問8 2穴バインダーに綴じてあった物で、有益な情報はありましたか。
(○はいくつでも)

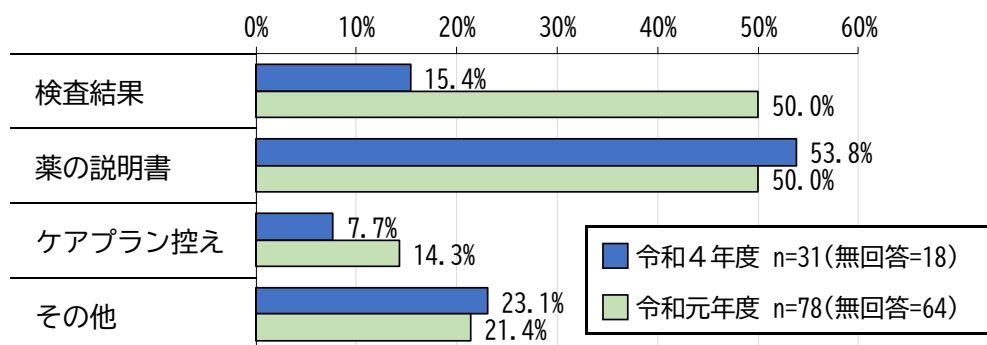
2穴バインダーに綴じてあった物で有益な情報としては、「薬の説明書」が53.8%で最も多く、次いで「検査結果」(15.4%)、「ケアプラン控え」(7.7%)の順に続いています。

令和元年度調査では、「検査結果」、「薬の説明書」がともに50.0%、「ケアプラン控え」が14.3%となっています。

令和元年度調査と比較すると、「検査結果」、「ケアプラン控え」では減少し、「薬の説明書」では若干増加しています。

「検査結果」が大きく減少しており、P50の結果を鑑みると、検査結果は2穴バインダーに綴じることは少なく、ファスナーケースに入れることで利用をされていたことが伺えます。

経年比較



(8) マグネットの活用

問9 マグネットで、ケースの保管場所を知ることができましたか。
(○は1つだけ)

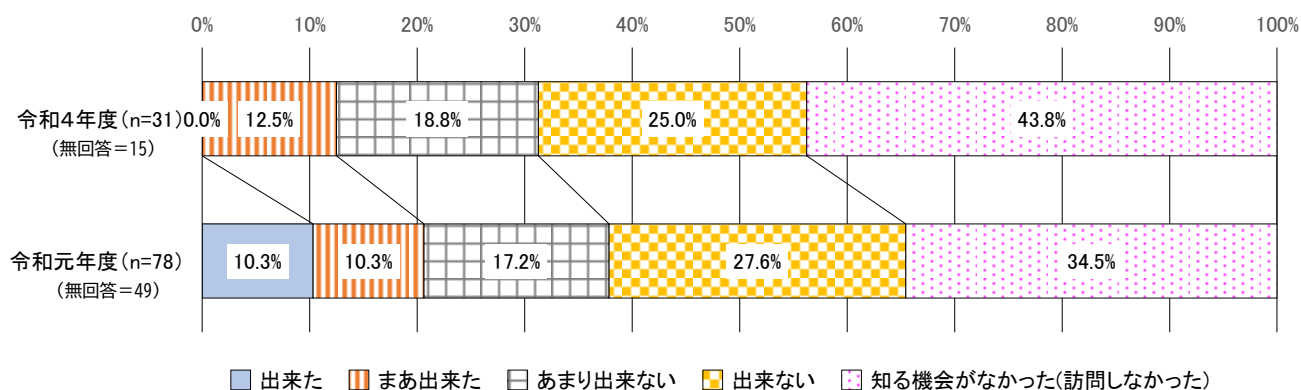
マグネットでケースの保管場所を知ることができたかについて、「知る機会がなかった（訪問しなかった）」が43.8%と最も多く次いで「出来ない」（25.0%）、「あまり出来ない」（18.8%）の順に続いています。

令和元年度調査では、「知る機会がなかった（訪問しなかった）」が34.5%と最も多く、次いで「出来ない」（27.6%）、「あまり出来ない」（17.2%）の順に続いています。

令和元年度調査と比較すると、「知る機会がなかった（訪問しなかった）」では34.5%（令和元年度）から43.8%（令和4年度）と、9.3ポイント増加しています。

訪問がない等で知る機会がなかったとの回答が増加しているが、「出来た」という回答が無いことから、マグネットを関係機関側が有効活用できていたとは言いがたい現状が伺えます。

経年比較



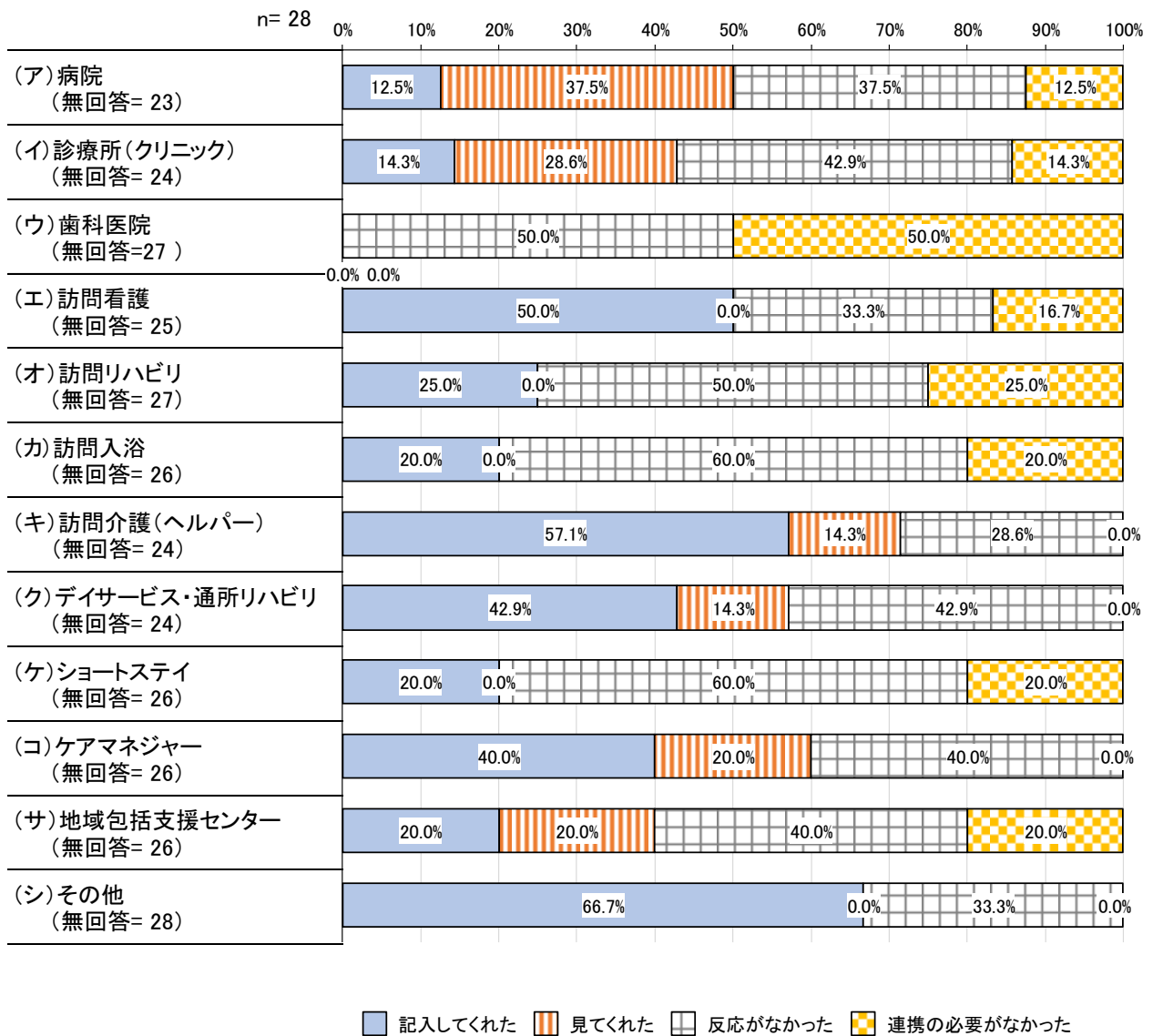
(9) 支え手帳の情報を伝えた先の反応

問 10 「みんなの連絡帳」等で情報を伝えた相手先の反応を教えてください。
 (○はそれぞれ1つだけ、該当がない場合は無記入)

情報を伝えた相手先の反応については、「記入してくれた」では、「訪問介護（ヘルパー）」が57.1%と最も多く、次いで「訪問看護」（50.0%）の順に続いています。

「見てくれた」では、「病院」（37.5%）、「診療所（クリニック）」（28.6%）の順となっています。

「反応がなかった」では「訪問入浴」、「ショートステイ」（ともに60.0%）、「歯科医院」「訪問リハビリ」（ともに50.0%）の順となっています。



(10) 利用の呼びかけ

問 11 支え手帳を使うよう声かけをしましたか。(○は1つだけ)

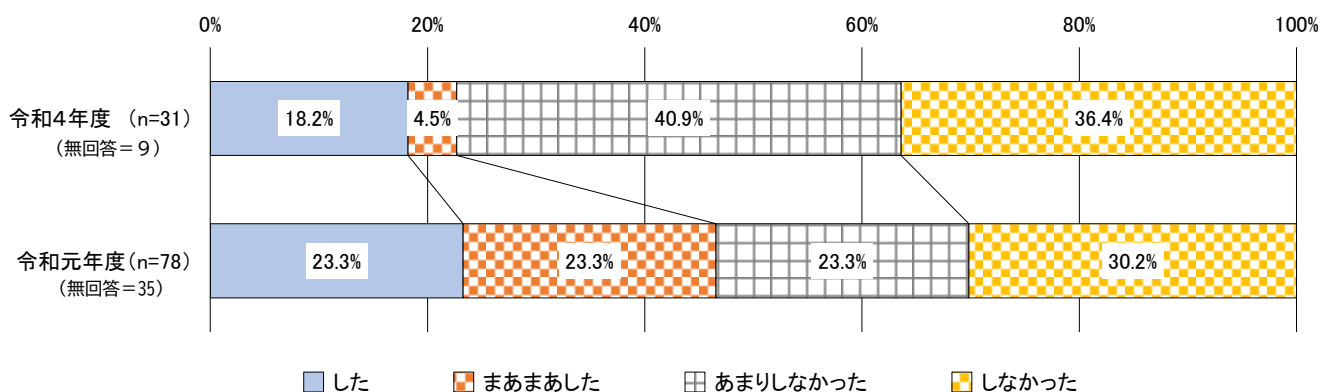
支え手帳を使うよう声かけをしたかについて、「あまりしなかった」が40.9%と最も多く、次いで「しなかった」(36.4%)、「した」(18.2%)の順に続いています。

令和元年度調査では、「しなかった」が30.2%と最も多く、次いで「まあまあした」、「あまりしなかった」(ともに23.3%)となっています。

令和元年度調査と比較すると、「した」と「まあまあした」を合わせた『声かけをした』は46.6%(令和元年度)から22.7%(令和4年度)と23.9ポイント減少しています。

支え手帳を使うように声かけをしたと回答した方が減少傾向にあり、あまりしなかったが増加傾向となっていることから、関係機関側の手帳への意識や関心が薄くなっている様子が伺えます。

経年比較



(11) 連携の助けになったか

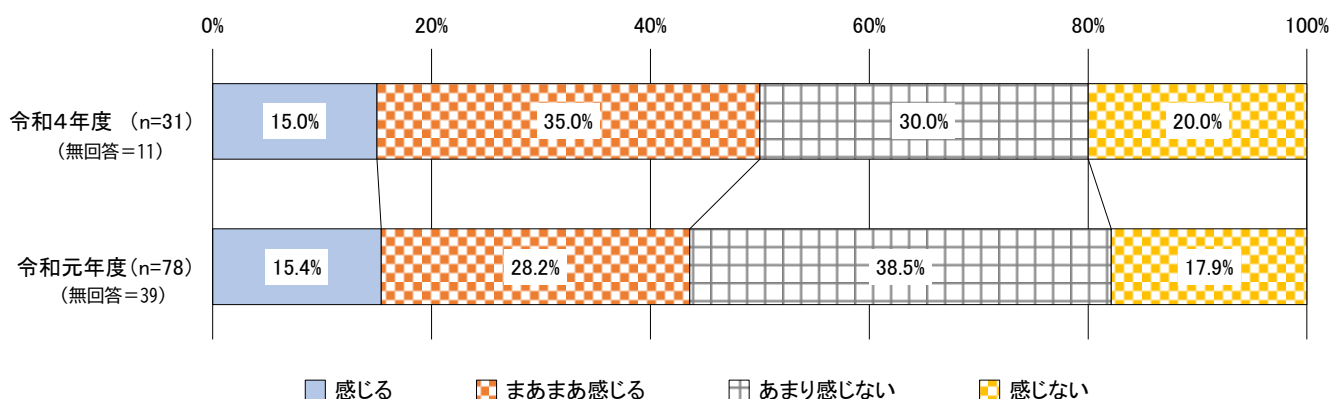
問 12 支え手帳があることで、医療と介護の職員の連携の一助になったと感じましたか。(○は1つだけ)

支え手帳が医療・介護両職員の連携の一助になったと感じたかについては、「まあまあ感じる」が35.0%と最も多く、続いて「あまり感じない」(30.0%)、「感じない」(20.0%)の順に続いています。

令和元年度調査では、「あまり感じない」が38.5%と最も多く、続いて「まあまあ感じる」が28.2%、「感じない」が17.9%の順に続いています。

令和元年度調査と比較すると、「感じる」と「まあまあ感じる」を合わせた『連携の一助になったと感じる』は43.6%(令和元年度)から50.0%(令和4年度)と、6.4ポイント増加しています。

経年比較



3 未利用の理由

(1) 未利用の理由

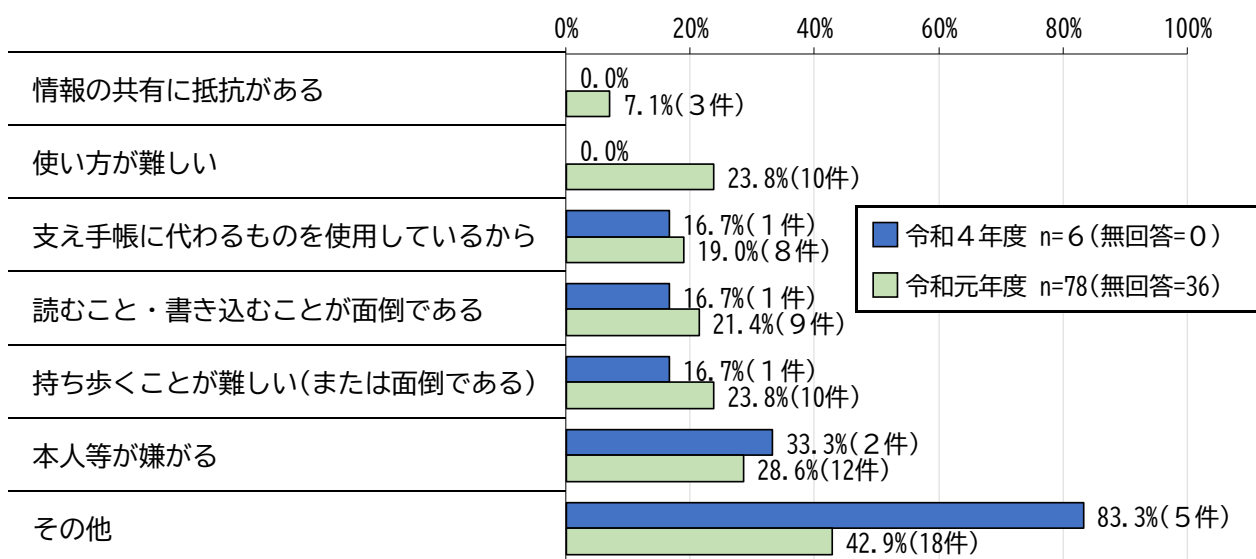
問 13 【問2で「支え手帳を確認しなかった」と回答した方に伺います。】
その理由を教えてください。(〇はいくつでも)

支え手帳を利用しなかった理由は、回答者数が少ないため参考値となりますが、「その他」が83.3%と最も多く、次いで「本人等が嫌がる」(33.3%)と続いています。

令和元年度調査では、「その他」が42.9%と最も多く、次いで「本人等が嫌がる」(28.6%)、「使い方が難しい」、「持ち歩くことが難しい、または面倒である」(ともに23.8%)と続いています。

令和元年度調査と比較すると、「本人等が嫌がる」で4.7ポイント増加している一方、他の項目では減少しています。

経年比較



4 手帳が有用となる対象

(1) 手帳が有用となる対象

問 14 支え手帳はどのような状況の高齢者に有効だと思われますか。(○はいくつでも)

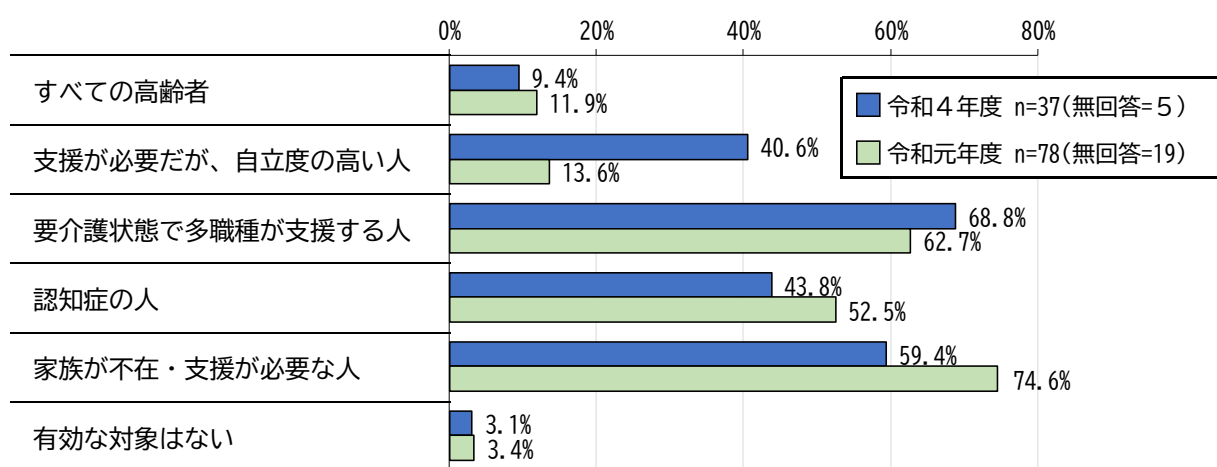
手帳がどのような状況の高齢者に有効と思うかについて、「要介護状態で多職種が支援する人」が68.8%で最も多く、次いで「家族が不在・支援が必要な人」(59.4%)、「認知症の人」(43.8%)の順に続いています。

令和元年度調査では、「家族が不在・支援が必要な人」が74.6%と最も多く、次いで「要介護状態で多職種が支援する人」(62.7%)、「認知症の人」(52.5%)の順に続いています。

令和元年度調査と比較すると、「家族が不在・支援が必要な人」では15.2ポイント減少していますが、「支援が必要だが、自立度の高い人」では27.0ポイント増加しています。

当初は「家族が不在・支援が必要な人」にとって有効と感じていたものの、利用を続けるうちに「支援が必要だが、自立度の高い人」にとって有効であると感じていることがわかります。

経年比較



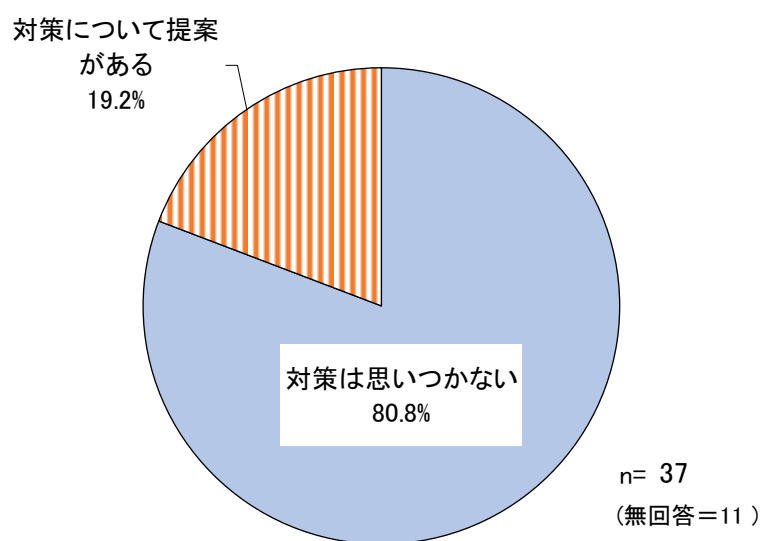
5 支え手帳を希望しない方への対策について

(1) 支え手帳を希望しない方への対策に関する提案

問 15 支え手帳を希望しない方の理由として「読むこと、書き込むことが難しい」が最多でした。この対策についてお考えをお聞かせください。(〇は1つだけ)

支え手帳を希望しない方への有効な対策については、19.2%の事業所から「提案がある」との回答を得ています。

具体的な提案内容は以下の通りとなります。



■提案内容の抜粋

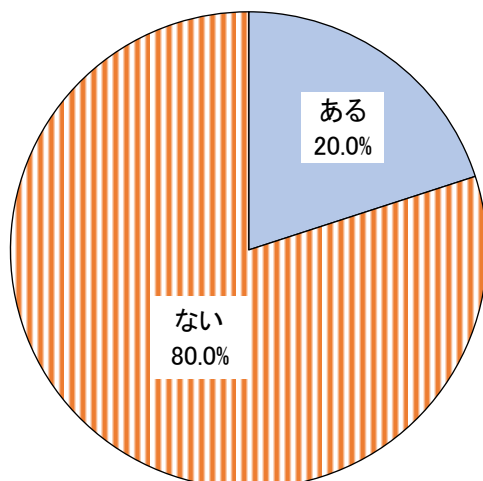
- ・みんなのページ以外は簡易的にしたい
- ・母子手帳くらいにする。
- ・〇×で付けれるように工夫する。
- ・要介護認定者等は、ケアマネが記入等出来るようにする。
- ・文章を簡潔にする・書きこむのではなく選択肢から選んでチェックする

6 支え手帳に代わる連携システムについて

(1) 支え手帳に代わる連携システムの有無

問 16 貴事業所が使用している「支え手帳」に代わる連携に関するシステムがありますか。(主催でなく参加しているものでも良いです)(○は1つだけ)

支え手帳に代わる連携システムの有無については、「ある」が20.0%、「ない」が80.0%となっています。

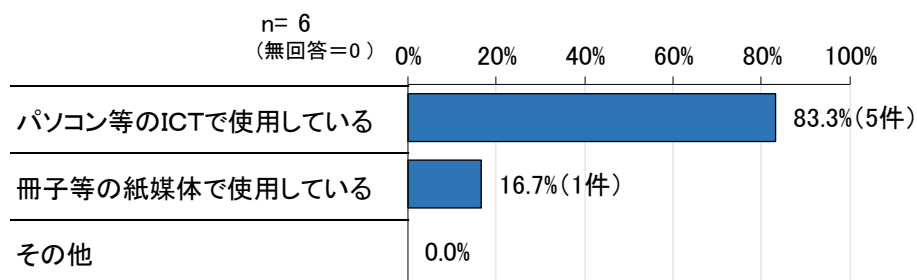


n= 37
(無回答=7)

(2) 支え手帳に代わる連携システムについて

問 17 【問 16 で「ある」と回答した方にお伺いします。】
使用しているシステムについて詳しく教えてください。(○はいくつでも)

使用している連携システムについては、「パソコン等の ICT で使用している」が83.3%、「冊子等の紙媒体で使用している」が16.7%となっています。

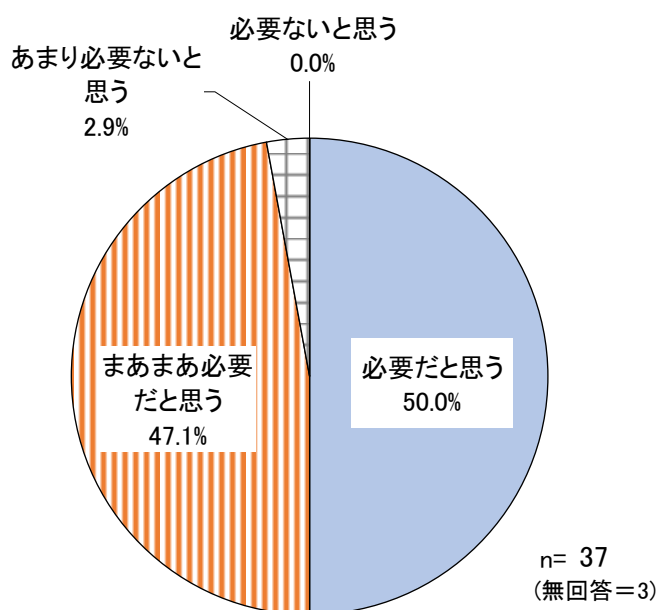


7 情報共有ツールの必要性について

(1) 情報共有ツールの必要性について

問 18 支え手帳のように、ご本人・ご家族・医療従事者・介護従事者が情報を共有し、連携できるものは必要だと思いますか。(○は1つだけ)

情報共有ツールの必要性については、「必要だと思う」が50.0%と最も多く、「必要だと思う」と「まあまあ必要だと思う」を合計した『必要だと思う』は97.1%となっています。一方、「必要ないと思う」と「あまり必要ないと思う」を合計した『必要ないと思う』は2.9%となっています。

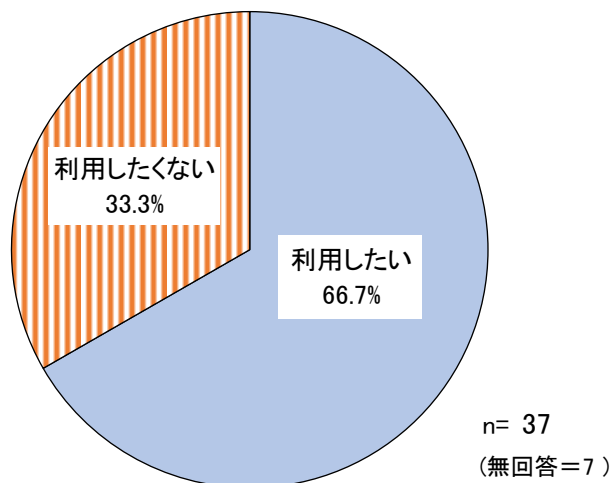


8 スマートフォン等を活用した医療・介護との連携について

(1) スマートフォン等を活用した医療・介護との連携

問 19 医療や介護の関係者と連携する際、スマートフォンやパソコンを活用した情報共有ができるものがあれば利用したいと思いますか。(○は1つだけ)

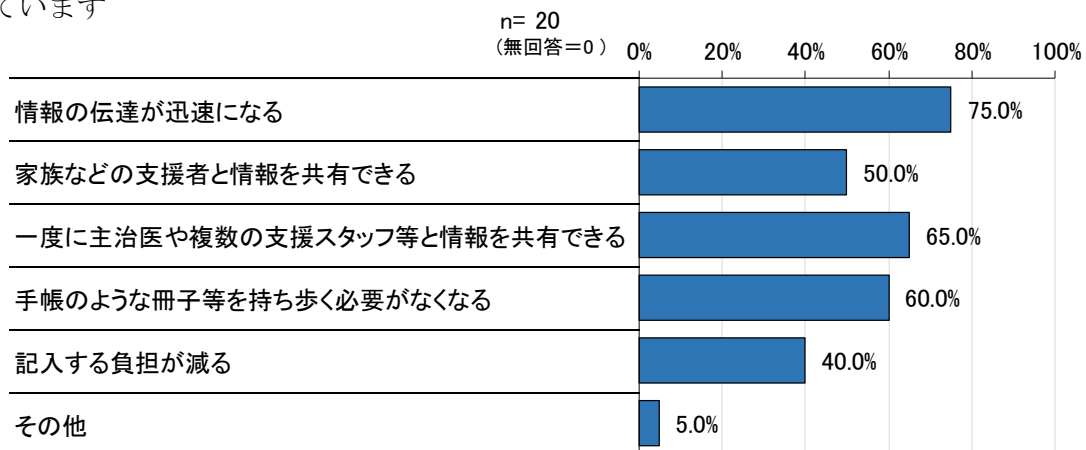
医療・介護との連携におけるスマートフォン等の活用意向については、「利用したい」が66.7%、「利用したくない」が33.3%となっています。



(2) スマートフォン等を活用した医療・介護との連携を利用したい・したくない理由

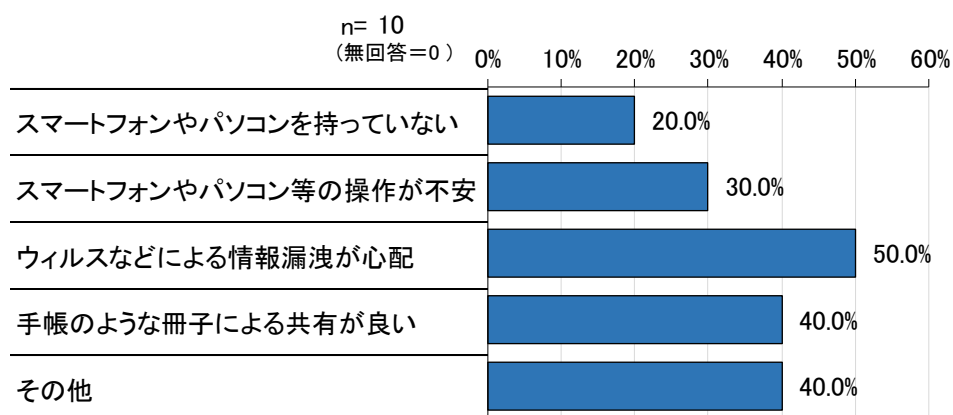
問 20 【問 19 で「利用したい」と回答した方に伺います。】
その理由を教えてください。(○はいくつでも)

スマートフォン等を活用した医療・介護との連携を利用したい理由については、「情報の伝達が迅速になる」が75.0%で最も多く、次いで「一度に主治医や複数の支援スタッフ等と情報を共有できる」(65.0%)、「手帳のような冊子を持ち歩く必要がなくなる」(60.0%)が続いています



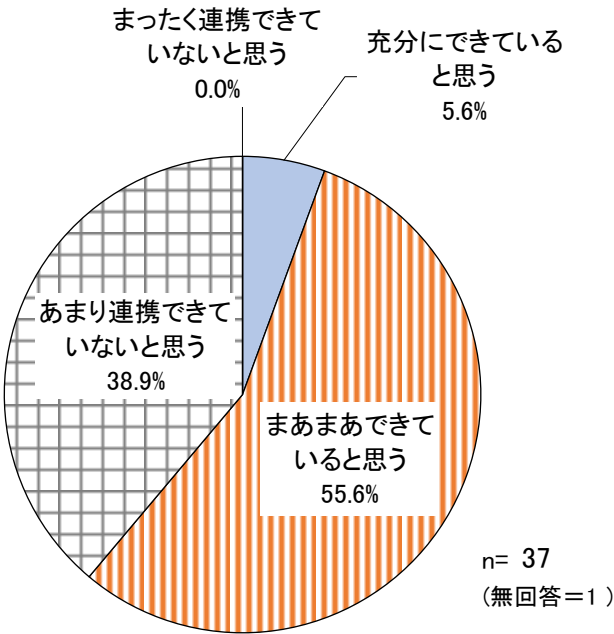
問 21 【問 20 で「利用したくない」と回答した方に伺います。
その理由を教えてください。(〇はいくつでも)

スマートフォン等を活用した医療・介護との連携を利用したくない理由については、「ウイルスなどによる情報漏洩が心配」が 50.0%で最も多く、次いで「手帳のような冊子による共有が良い」(40.0%)、「スマートフォンやパソコン等の操作が不安」(30.0%) の順に続いています。



問 22 貴事業所と医療・介護の関係機関との連携について、現在はできていると思いますか。また、その理由を教えてください。(○は1つだけ)

医療・介護との連携ができているかについては、「十分にできていると思う」と「まあまあできていると思う」を合わせた『できていると思う』は61.2%となっています。



9 自由回答

(1) 支え手帳に必要な情報やツールについて

問 23 支え手帳に必要な情報や、ツールについてお考えをお聞かせください。

■要旨の抜粋

○手帳の大きさや重さについて

- ・現在のような手帳記入式は一方通行と思われる。タイムリーに情報交換が必要な場合には対応不可能ですね。
- ・地域に必要なインフォーマルの情報
- ・みんなのページのところは、ふだんの訪問の様子が書かれてあるので特別にみんなに伝えたい情報の記入があるといい。みんなのページが沢山あればいい。
- ・デイサービス等での血圧の値や体重を共に情報共有できると有りがたいと感じました。
- ・受け入れる側（ショートステイ事業所）のため、まず本人さんが手帳を持ってこない。ショートでの申し送り帳があるので部分的には役割が重複している。本来は、いろんな人が書きこめる手帳は便利だが、自分達の手元になく分活用は難しい。本人が見れる環境下で問題点（他職やご家族に伝えたいこと）を書くのはばかられ、扱いは難しいかもしれません。

(2) 支え手帳の形式や配布方法について

問 24 支え手帳の形式や配布方法について、または感想等をお聞かせください。

■要旨の抜粋

- ・バインダーは荷物になるのでどうかと…。
- ・体調の変化やプランの変更が多い方にその都度支え手帳の記入は難しい
- ・病院までのもち歩きが大変だと言っている人がいるので、何かいい方法があるといい。紙が厚いのでかさばって重くなる。バインダーが角ばっているので手になじまない。
- ・支え手帳を導入している方に、持参されているか確認しても持参していないことがほとんどで、内容の確認や有効活用ができず残念なことがたびたびありました。
- ・自分で自分の事を他者に正しく伝えられない方や記憶力が低下しだし、サポートを望まれる方に有用だと思いました。
- ・各事業所へきちんと周知してまた、家族にもよく説明が必要と思う。
- ・希望者だけではなく担当ケアマネージャーより皆さんに配布して頂いても良いのではと思います。

V 支え手帳利用拒否者調査

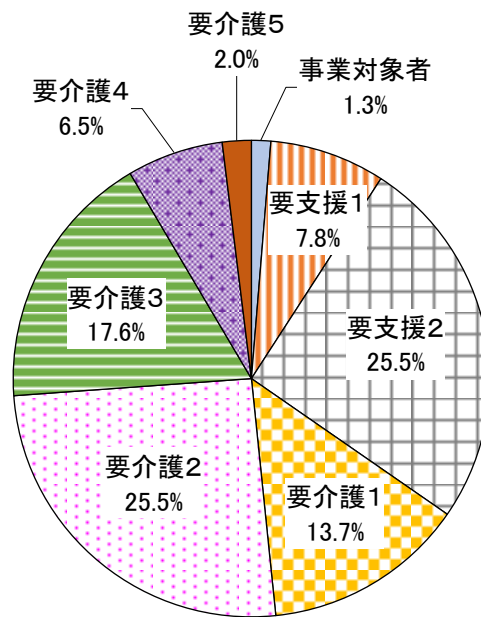
1 基本属性

(1) 介護認定の状況

問1 対象者の現在の介護認定度

支え手帳の利用を拒否した方の現在の介護認定度は、「要支援2」、「要介護2」がともに25.5%と最も多く、次いで「要介護3」(17.6%)、「要介護1」(13.7%)の順に続いています。

要支援の方の合計は33.3%、要介護の方の合計は65.3%となっています。

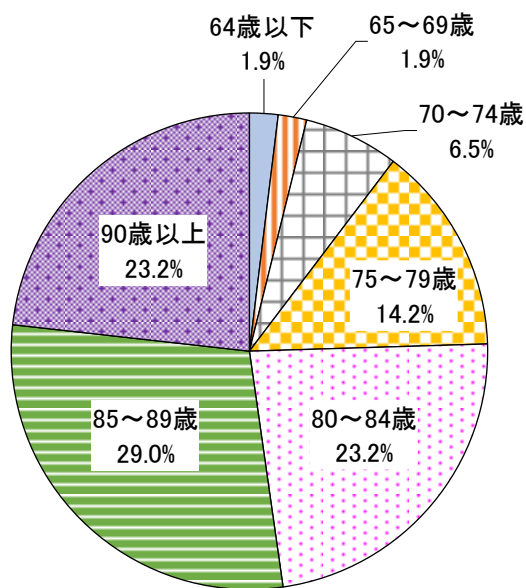


n= 158
(不明=5)

(2) 年齢

問2-① 対象者の年齢

支え手帳の利用を拒否した人の年齢は、「85～89歳」が29.0%と最も多く、次いで「80～84歳」、「90歳以上」（ともに23.2%）、「75～79歳」（14.2%）の順に続いています。74歳以下の方の合計は10.3%、75歳以上の方の合計は89.6%となっています。

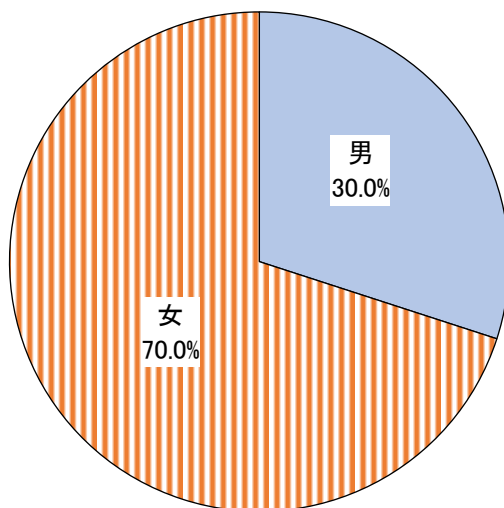


n= 158
(不明=3)

(3) 性別

問2-② 対象者の性別

支え手帳の利用を拒否した人の性別は、「男性」が30.0%、「女性」が70.0%となっています。

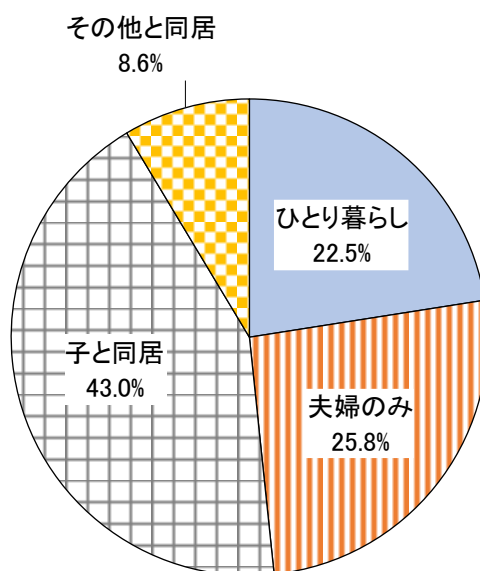


n= 158
(不明=8)

(4) 家族構成

問3 対象者の家族構成

支え手帳の利用を拒否した人の家族構成は、「子と同居」が43.0%、「夫婦のみ」が25.8%、「ひとり暮らし」が22.5%となっています。



n= 158
(不明=7)

2 配付に至らなかった理由

(1) 未配付の理由

問4 配付に至らなかった主な理由（複数回答可）

配付に至らなかった主な理由として、「読むこと・書き込むことが難しい、または面倒である」が72.4%と最も多く、次いで「持ち歩くことが難しい、または面倒である」(46.2%)、「サイズが不満」(21.2%)の順に続いています。

その他の自由意見としては、「書き込む時間が取れない」、「文字が小さい」といった意見がありました。

